

4 特定課題

県の長期計画の推進

問29 状況が良くなった施策

愛媛県では、長期計画で、各分野に目標を掲げて施策を推進していますが、この2年間で特に**状況が良くなった**と思う施策を、次の中から**五つまで選んで**番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

《産業分野》

- | | |
|--|-------|
| 1 県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい | 8. 5 |
| 2 元気な企業をもっと呼び込むとともに、県内企業の事業活動を支援し、雇用の場を増やしたい | 11. 7 |
| 3 県内企業の技術力を高め、新しいビジネスへのチャレンジをもっと促したい | 4. 5 |
| 4 働きたい人みんなが能力を発揮して、いきいきとした職業人生を歩めるようにしたい | 10. 7 |
| 5 子育て期の労働者が家庭生活と調和しながら働けるようにしたい | 10. 7 |
| 6 農林水産業の担い手の力をもっと伸ばしたい | 4. 2 |
| 7 豊かな田畑や樹園地、漁場をもっと増やしたい | 1. 9 |
| 8 多様な消費者ニーズに応え、安定供給のできる産地になりたい | 3. 6 |
| 9 愛媛産品をもっとたくさんの人に選んでもらいたい | 31. 3 |
| 10 県産品の販路を拡大し、地域経済を活性化したい | 17. 5 |
| 11 愛媛県をもっとたくさんの人に知ってもらいたい | 33. 2 |
| 12 もっとたくさんの人に訪れてもらい、地域を活性化したい | 15. 5 |
| 13 海外とのつながりを強め、交流を深めるとともに、国際観光地としての知名度を高め、もっと多くの外国人に訪れてもらいたい | 14. 1 |
| 14 自転車を活用して交流人口を拡大させ、地域を活性化したい | 30. 1 |
| 15 もっとスムーズに県内外を移動できるようにしたい | 9. 4 |
| 16 日常生活において、もっと安心して移動できるようにしたい | 4. 2 |

《暮らし分野》

- | | |
|---|-------|
| 17 多様な主体がもっと連携・協力して、地域課題に取り組めるようにしたい | 2. 9 |
| 18 性別にかかわらず個性と能力を発揮できる、多様性に富んだ活力ある社会にしたい | 4. 3 |
| 19 互いの尊厳と権利を尊び、共に歩むことができる社会にしたい | 2. 9 |
| 20 地域を支える人材を呼び込み、育成したい | 3. 4 |
| 21 より広い範囲で支え合う住民主体の集落運営を進めたい | 1. 4 |
| 22 高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい | 23. 3 |
| 23 障がい者が地域の中で生きがいを見つけ、もっと安心して生活できるようにしたい | 5. 5 |
| 24 もっと安心して福祉サービスを受けられるようにしたい | 9. 1 |
| 25 もっと自分らしくいきいきと暮らせるようにしたい | 5. 2 |
| 26 もっと安心して医療サービスを受けられるようにしたい | 10. 7 |
| 27 どこにいても迅速に救急医療を受けられるようにしたい | 8. 2 |
| 28 もっと快適に市街地や公園、街路を利用できるようにしたい | 2. 4 |
| 29 パソコンやスマートフォンなどを利用して、もっと便利で安全・安心に暮らせるようにしたい | 7. 4 |
| 30 もっと安全に消費生活や食生活を送れるようにしたい | 2. 1 |
| 31 水不足の不安を解消したい | 5. 4 |
| 32 交通事故を減らし、犠牲者を一人でも少なくしたい | 4. 0 |

33	犯罪被害者を一人でも少なくしたい	1. 9
34	原子力発電所の安全に万全を期する愛媛県にしたい	5. 6
35	災害の被害を最小限にとどめ、県民の生命・身体・財産を守りたい	3. 4
36	災害に負けない公共施設や農林・土木施設をもっと増やしたい	1. 8

《人づくり分野》

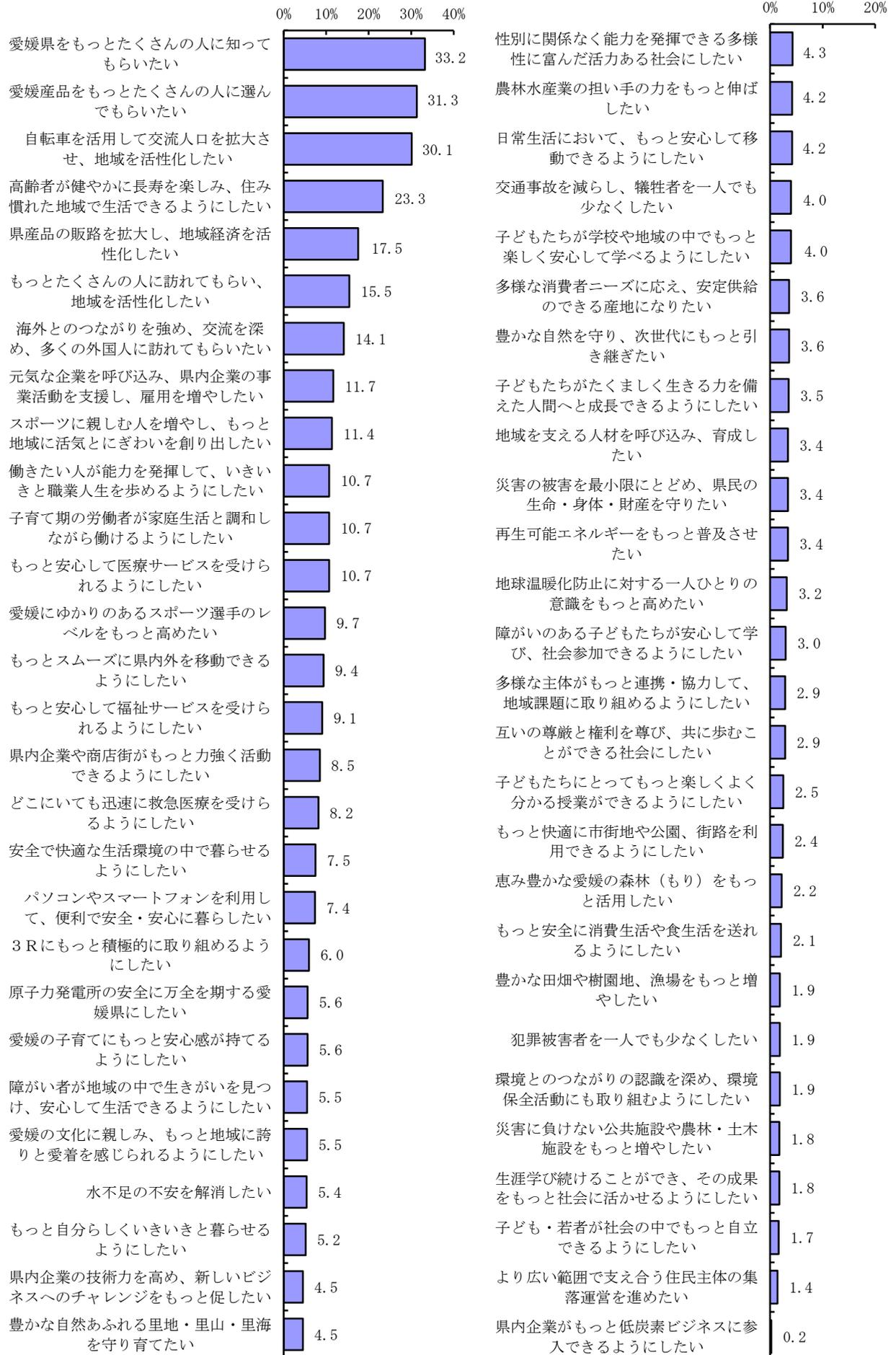
37	愛媛の子育てにもっと安心感が持てるようにしたい	5. 6
38	子ども・若者が社会の中でもっと自立できるようにしたい	1. 7
39	子どもたちが学校や地域でもっと楽しく安心して学べるようにしたい	4. 0
40	子どもたちがたくましく生きる力を備えた人間へと成長できるようにしたい	3. 5
41	障がいのある子どもたちがもっと安心して学び、自立し社会参加できるようにしたい	3. 0
42	子どもたちにとってもっと楽しくよく分かる授業ができるようにしたい	2. 5
43	生涯学び続けることができ、その成果をもっと社会に活かせるようにしたい	1. 8
44	愛媛の文化に親しみ、もっと地域に誇りと愛着を感じられるようにしたい	5. 5
45	スポーツに親しむ人を増やし、もっと地域に活気とにぎわいを創り出せるようにしたい	11. 4
46	愛媛にゆかりのあるスポーツ選手のレベルをもっと高めたい	9. 7

《環境分野》

47	環境とのつながりについて認識を深め、環境保全活動にもっと積極的に取り組むようにしたい	1. 9
48	地球温暖化防止に対する一人ひとりの意識をもっと高めたい	3. 2
49	3Rにもっと積極的に取り組めるようにしたい	6. 0
※3Rとは、Reduce（廃棄物の発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再生利用）の頭文字		
50	安全で快適な生活環境の中で暮らせるようにしたい	7. 5
51	豊かな自然を守り、次世代にもっと引き継ぎたい	3. 6
52	豊かな自然あふれる里地・里山・里海を守り育てたい	4. 5
53	再生可能エネルギーをもっと普及させたい	3. 4
54	県内企業がもっと低炭素ビジネスに参入できるようにしたい	0. 2
55	恵み豊かな愛媛の森林（もり）をもっと活用したい	2. 2

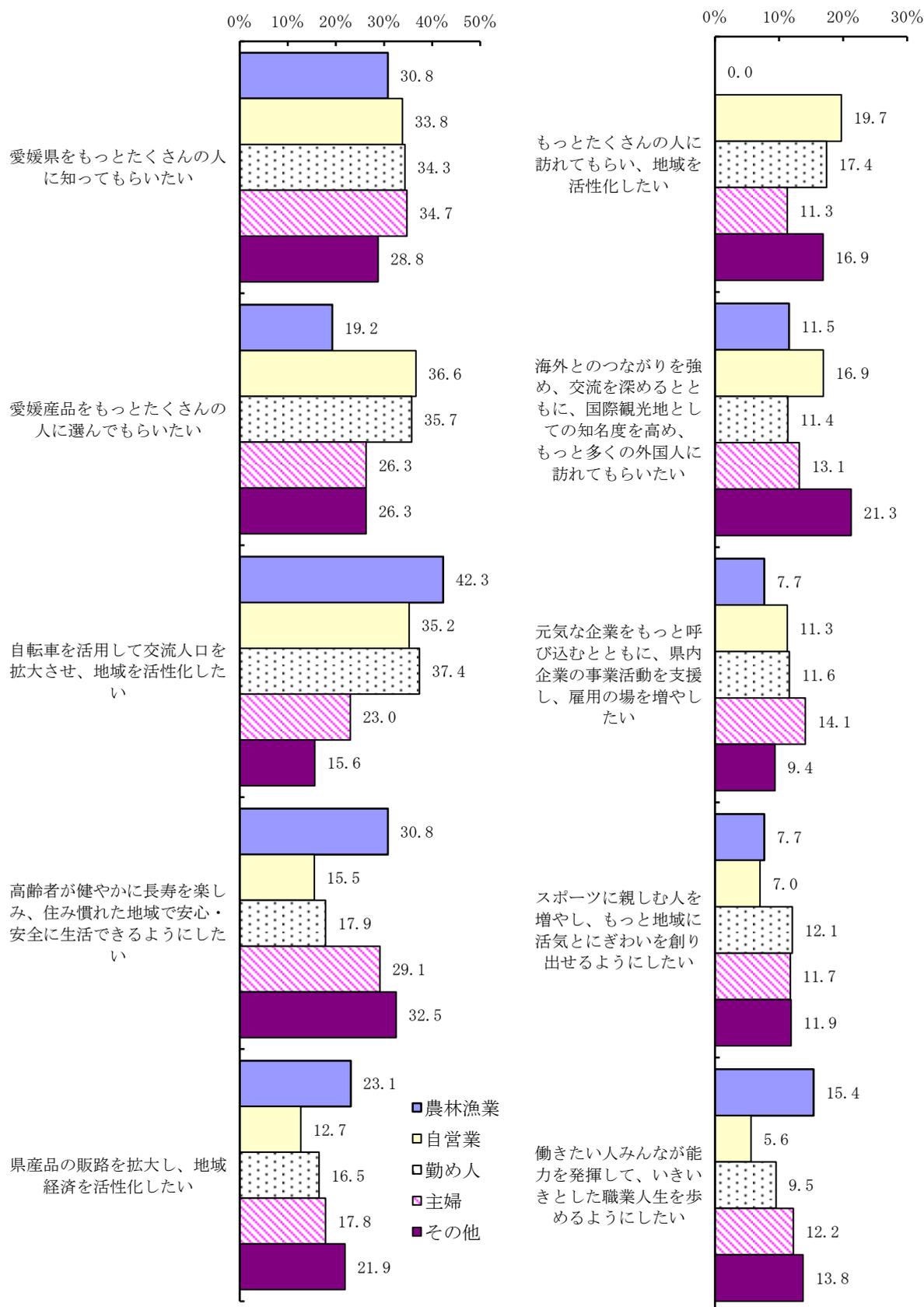
愛媛県が各分野に目標を掲げて施策を推進している長期計画について、この2年間で特に状況が良くなったと思う施策を聞いたところ、「愛媛県をもっとたくさんの人に知ってもらいたい」と答えた人の割合が33.2%で最も多く、以下「愛媛産品をもっとたくさんの人に選んでもらいたい」

(31.3%)、「自転車を活用して交流人口を拡大させ、地域を活性化したい」(30.1%)、「高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい」(23.3%)などの順となっている。



【職業別】

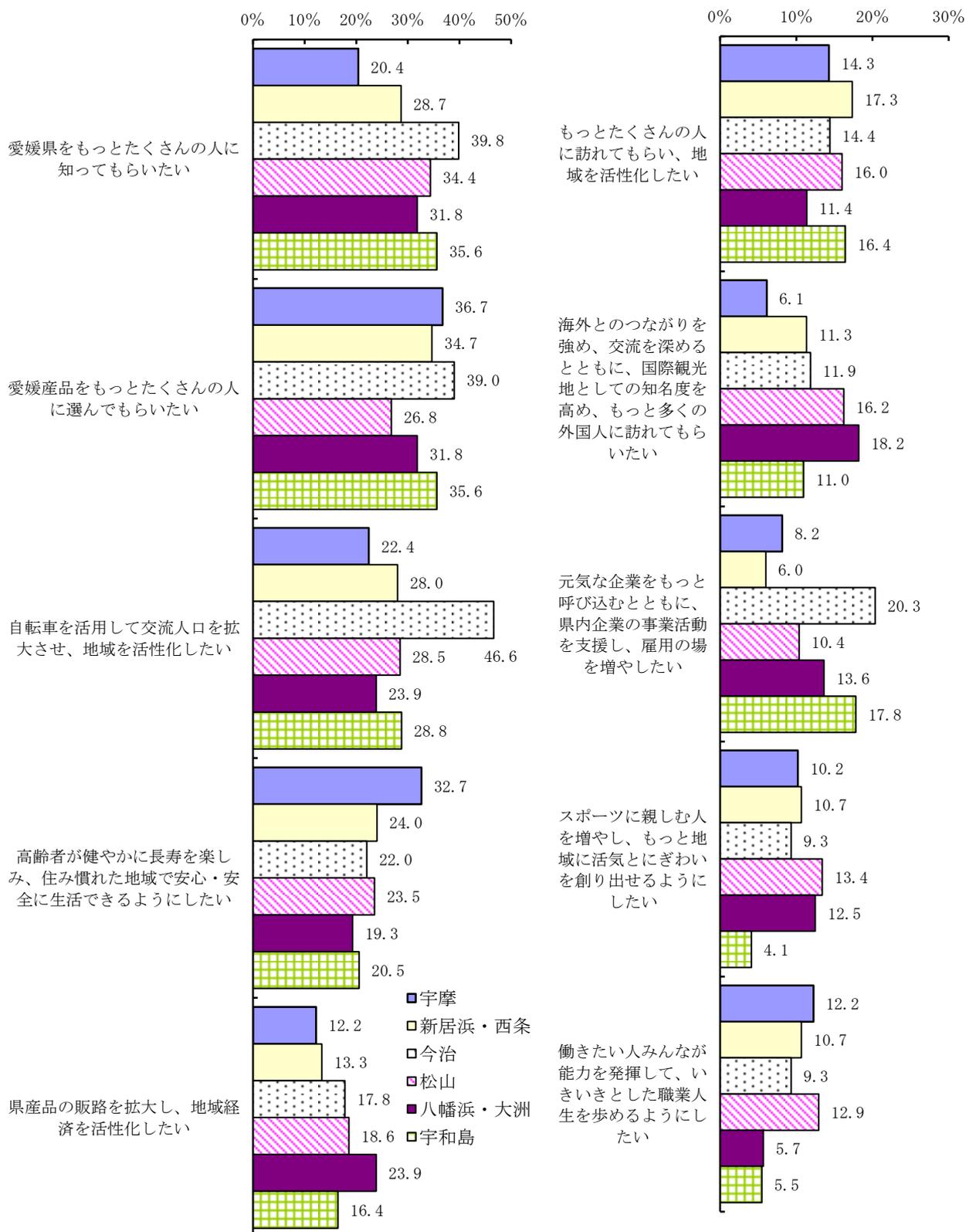
上位10項目を職業別にみると、農林漁業及び勤め人では「自転車を活用して交流人口を拡大させ、地域を活性化したい」(順に42.3%、37.4%)、自営業では「愛媛産品をもっとたくさんの人に選んでもらいたい」(36.6%)、主婦では「愛媛県をもっとたくさんの人に知ってもらいたい」(34.7%)、その他では「高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい」(32.5%)と答えた人の割合が最も多く、職業により違いがみられる。



【生活圏域別】

上位10項目を生活圏域別にみると、今治圏域を除く東予では、「愛媛産品をたくさんの人に選んでもらいたい」(宇摩圏域 36.7%、新居浜・西条圏域 34.7%)と答えた人の割合が最も多く、中予では「愛媛県をたくさんの人に知ってもらいたい」(松山圏域 34.4%)が最も多い。南予では、「愛媛産品をたくさんの人に選んでもらいたい」と「愛媛県をたくさんの人に知ってもらいたい」の割合がいずれも同じ(八幡浜・大洲圏域 31.8%、宇和島圏域 35.6%)で最も多くなっている。一方、今治圏域では「自転車を活用して交流人口を拡大させ、地域を活性化したい」が最も多く46.6%で、他の圏域と比較しても特に多くなっている。

また、宇摩圏域では「高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい」、今治圏域では、「元気な企業を呼び込み、県内企業の事業活動を支援し、雇用の場を増やしたい」と答えた人の割合が、他の圏域と比較して多くなっている。



問29-1 状況が悪くなった施策

愛媛県では、長期計画で、各分野に目標を掲げて施策を推進していますが、この2年間で特に**状況が悪くなった**と思う施策を、次の中から**五つまで選んで**番号を○で囲んでください。（選択肢は、問29と同じです。）

	(複数回答)	(%)
《産業分野》		
1 県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい	30	2
2 元気な企業をもっと呼び込むとともに、県内企業の事業活動を支援し、雇用の場を増やしたい	9	3
3 県内企業の技術力を高め、新しいビジネスへのチャレンジをもっと促したい	4	1
4 働きたい人みんなが能力を発揮して、いきいきとした職業人生を歩めるようにしたい	13	0
5 子育て期の労働者が家庭生活と調和しながら働けるようにしたい	11	6
6 農林水産業の担い手の力をもっと伸ばしたい	13	4
7 豊かな田畑や樹園地、漁場をもっと増やしたい	9	7
8 多様な消費者ニーズに応え、安定供給のできる産地になりたい	2	9
9 愛媛産品をもっとたくさんの人に選んでもらいたい	2	0
10 県産品の販路を拡大し、地域経済を活性化したい	2	1
11 愛媛県をもっとたくさんの人に知ってもらいたい	4	4
12 もっとたくさんの人に訪れてもらい、地域を活性化したい	2	3
13 海外とのつながりを強め、交流を深めるとともに、国際観光地としての知名度を高め、もっと多くの外国人に訪れてもらいたい	1	7
14 自転車を活用して交流人口を拡大させ、地域を活性化したい	1	7
15 もっとスムーズに県内外を移動できるようにしたい	7	6
16 日常生活において、もっと安心して移動できるようにしたい	6	3
《暮らし分野》		
17 多様な主体がもっと連携・協力して、地域課題に取り組めるようにしたい	4	7
18 性別にかかわらず個性と能力を発揮できる、多様性に富んだ活力ある社会にしたい	5	6
19 互いの尊厳と権利を尊び、共に歩むことができる社会にしたい	3	2
20 地域を支える人材を呼び込み、育成したい	4	3
21 より広い範囲で支え合う住民主体の集落運営を進めたい	4	1
22 高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい	16	7
23 障がい者が地域の中で生きがいを見つけ、もっと安心して生活できるようにしたい	4	3
24 もっと安心して福祉サービスを受けられるようにしたい	10	9
25 もっと自分らしくいきいきと暮らせるようにしたい	4	3
26 もっと安心して医療サービスを受けられるようにしたい	12	1
27 どこにいても迅速に救急医療を受けられるようにしたい	8	9
28 もっと快適に市街地や公園、街路を利用できるようにしたい	4	9
29 パソコンやスマートフォンなどを利用して、もっと便利で安全・安心に暮らせるようにしたい	2	2
30 もっと安全に消費生活や食生活を送れるようにしたい	4	5
31 水不足の不安を解消したい	12	3
32 交通事故を減らし、犠牲者を一人でも少なくしたい	21	5
33 犯罪被害者を一人でも少なくしたい	8	2
34 原子力発電所の安全に万全を期する愛媛県にしたい	15	4
35 災害の被害を最小限にとどめ、県民の生命・身体・財産を守りたい	2	3
36 災害に負けない公共施設や農林・土木施設をもっと増やしたい	3	1

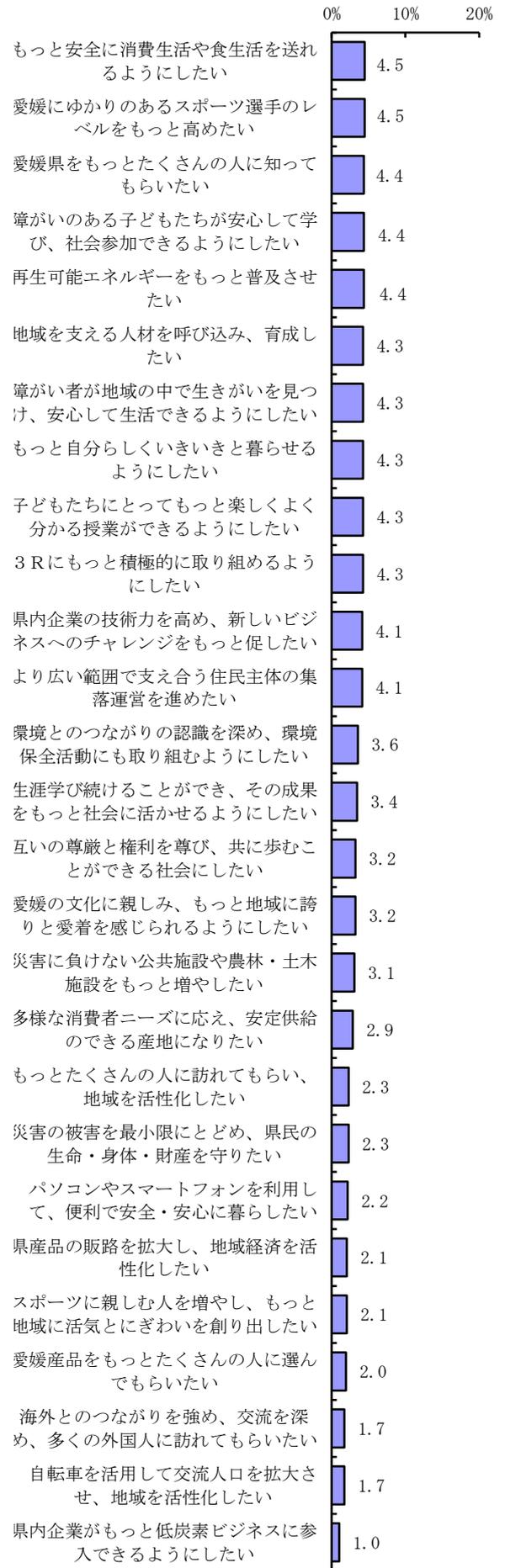
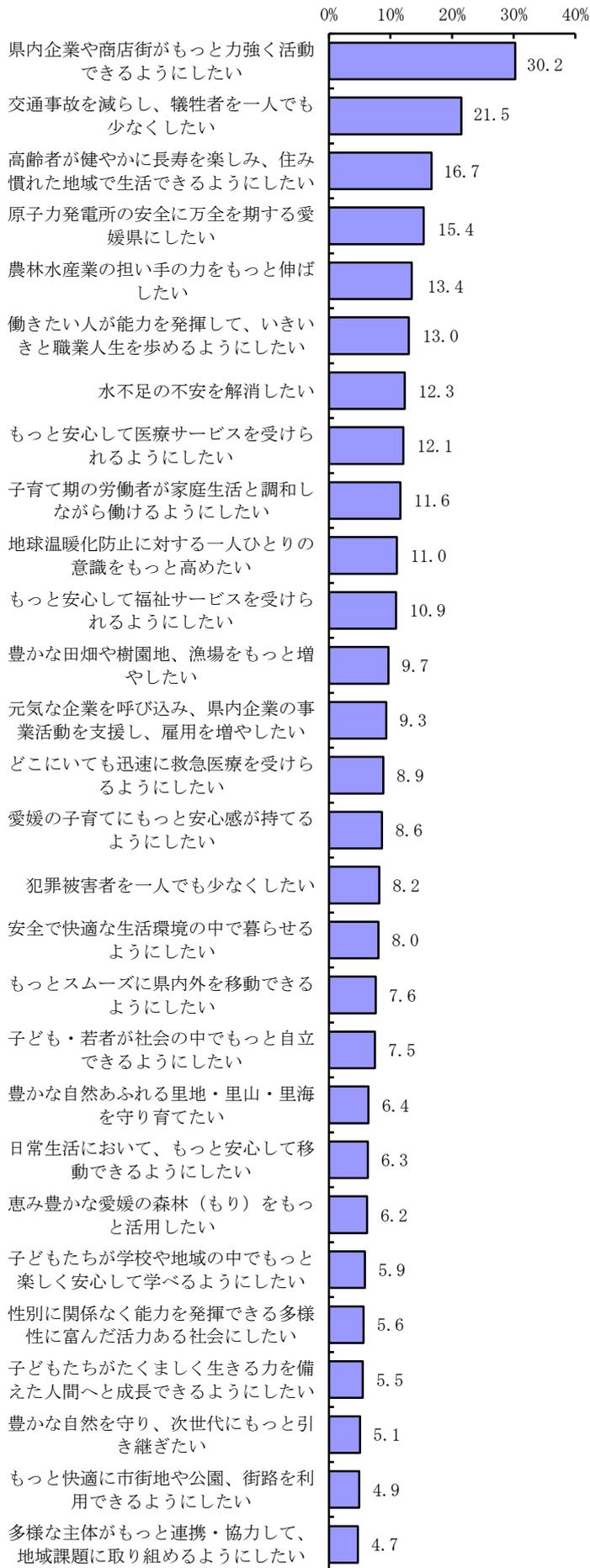
《人づくり分野》

37	愛媛の子育てにもっと安心感が持てるようにしたい	8. 6
38	子ども・若者が社会の中でもっと自立できるようにしたい	7. 5
39	子どもたちが学校や地域でもっと楽しく安心して学べるようにしたい	5. 9
40	子どもたちがたくましく生きる力を備えた人間へと成長できるようにしたい	5. 5
41	障がいのある子どもたちがもっと安心して学び、自立し社会参加できるようにしたい	4. 4
42	子どもたちにとってもっと楽しくよく分かる授業ができるようにしたい	4. 3
43	生涯学び続けることができ、その成果をもっと社会に活かせるようにしたい	3. 4
44	愛媛の文化に親しみ、もっと地域に誇りと愛着を感じられるようにしたい	3. 2
45	スポーツに親しむ人を増やし、もっと地域に活気とにぎわいを創り出せるようにしたい	2. 1
46	愛媛にゆかりのあるスポーツ選手のレベルをもっと高めたい	4. 5

《環境分野》

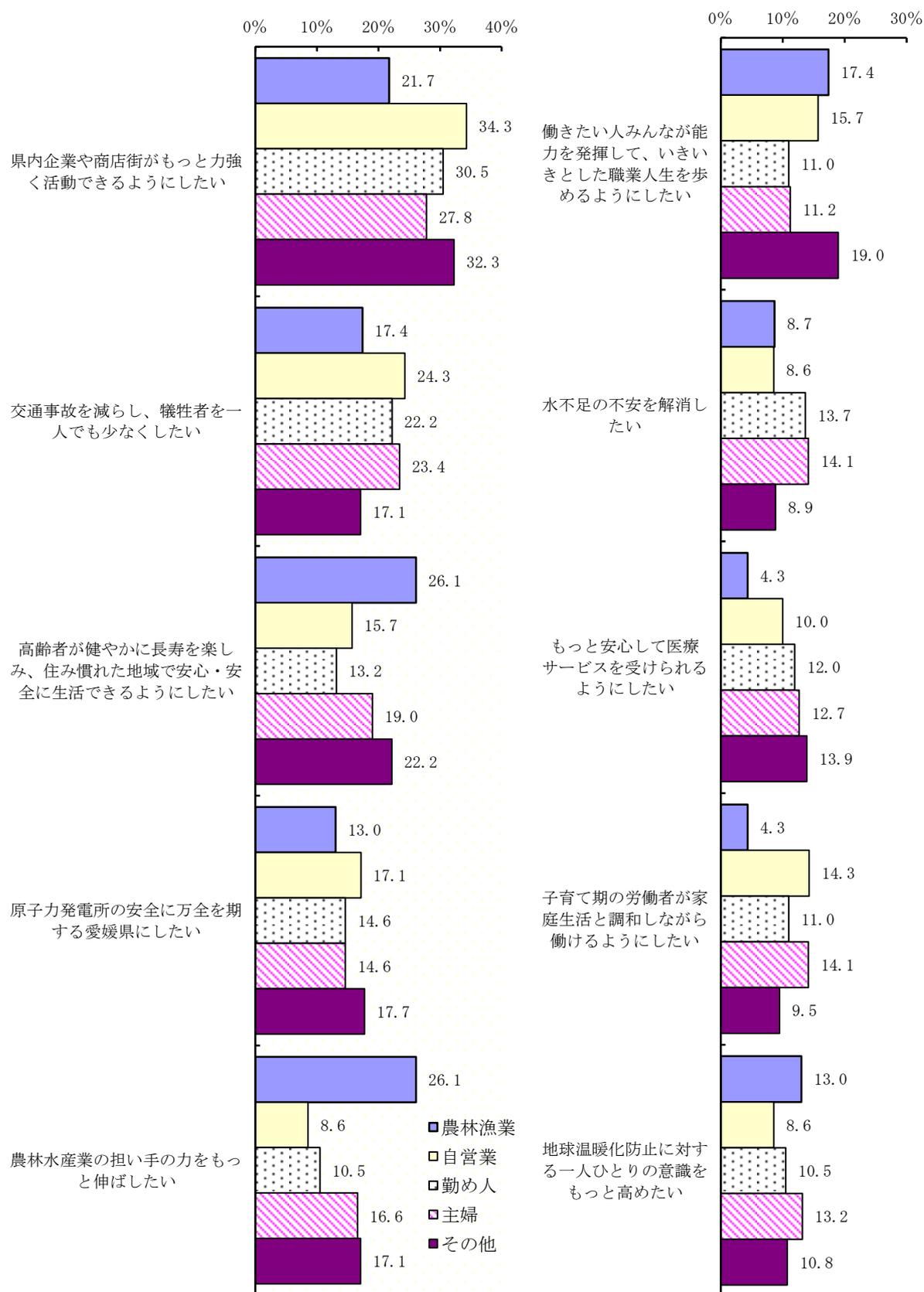
47	環境とのつながりについて認識を深め、環境保全活動にもっと積極的に取り組むようにしたい	3. 6
48	地球温暖化防止に対する一人ひとりの意識をもっと高めたい	11. 0
49	3Rにもっと積極的に取り組めるようにしたい	4. 3
※3Rとは、Reduce（廃棄物の発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再生利用）の頭文字		
50	安全で快適な生活環境の中で暮らせるようにしたい	8. 0
51	豊かな自然を守り、次世代にもっと引き継ぎたい	5. 1
52	豊かな自然あふれる里地・里山・里海を守り育てたい	6. 4
53	再生可能エネルギーをもっと普及させたい	4. 4
54	県内企業がもっと低炭素ビジネスに参入できるようにしたい	1. 0
55	恵み豊かな愛媛の森林（もり）をもっと活用したい	6. 2

愛媛県が各分野に目標を掲げて施策を推進している長期計画について、この2年間で特に状況が悪くなったと思う施策を聞いたところ、「県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい」と答えた人の割合が30.2%で最も多く、以下「交通事故を減らし、犠牲者を一人でも少なくしたい」（21.5%）、「高齢者が健やかに長寿を楽しみ、住み慣れた地域で安心・安全に生活できるようにしたい」（16.7%）、「原子力発電所の安全に万全を期する愛媛県にしたい」（15.4%）などの順となっている。



【職業別】

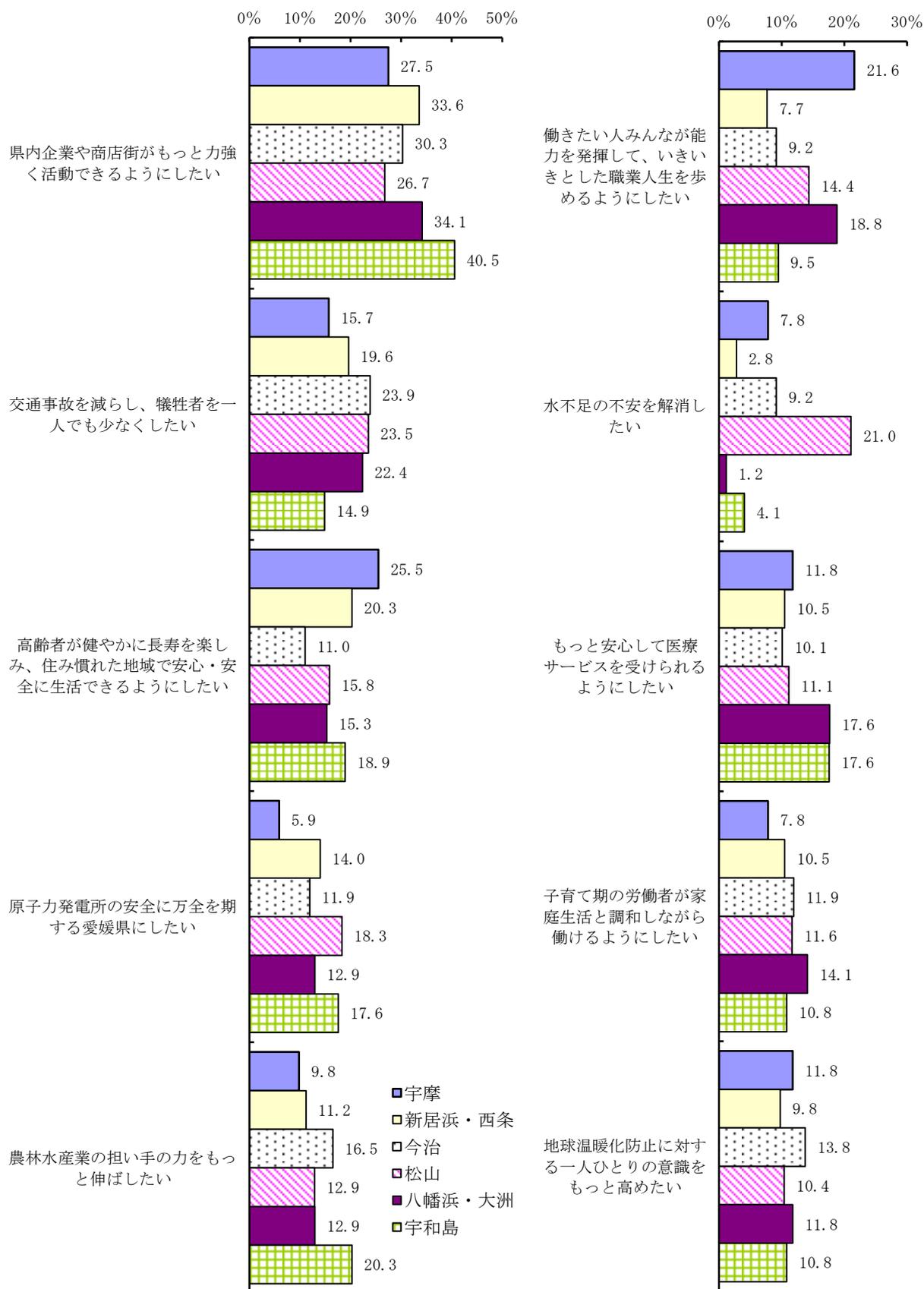
上位10項目を職業別にみると、農林漁業を除く全ての職種で「県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい」と答えた人の割合が最も多く、特に自営業で多く(34.3%)になっている。農林漁業では、「農林水産業の担い手の力を伸ばしたい」と「高齢者が住み慣れた地域で自立し、健康で活動的に生活できるようにしたい」が同率(26.1%)で最も多くなっている。



【生活圏域別】

上位10項目を生活圏域別にみると、全ての圏域で「県内企業や商店街がもっと力強く活動できるようにしたい」と答えた人の割合が最も多く、特に宇和島圏域(40.5%)が多い。

また、松山圏域では「水不足の不安を解消したい」、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域では、「働きたい人みんなが能力を発揮して、いきいきとした職業人生を歩めるようにしたい」が他の圏域と比較して多くなっている。



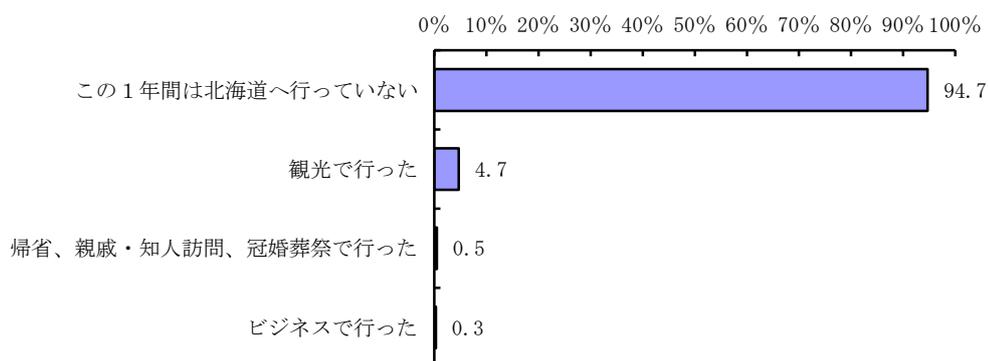
北海道とのつながり
問30 北海道へ行った理由と回数

あなたがこの1年間に北海道へ行った理由と回数を次の中からいくつでも選んで○で囲んでください。

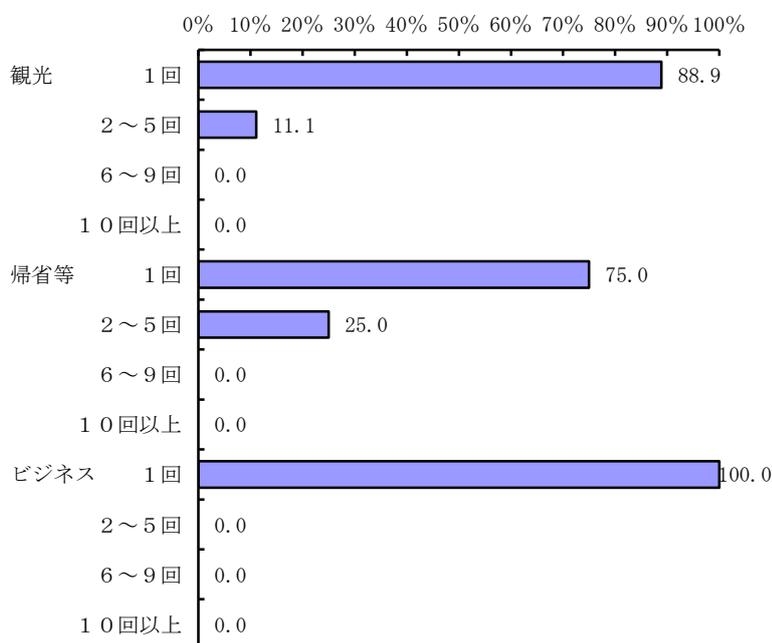
	(複数回答)	(%)
1 この1年間は北海道へ行っていない		94.7
2 ビジネスで(1回ある、2～5回ある、6～9回ある、10回以上ある)		0.3
3 帰省、親戚・知人訪問、冠婚葬祭のいずれかで(1回ある、2～5回ある、6～9回ある、10回以上ある)		0.5
4 観光で(1回ある、2～5回ある、6～9回ある、10回以上ある)		4.7

この1年間に北海道へ行ったかどうかを聞いたところ、94.7%の人が「この1年間は北海道へ行っていない」と答えている。

また、行った人の理由をみると、「観光で行った」4.7%、「帰省、親戚・知人訪問、冠婚葬祭のいずれかで行った」0.5%、「ビジネスで行った」0.3%の順になっている。



北海道へ行った理由別に行った回数を見ると、いずれの理由でも1回が多かったが、帰省等の場合に、複数回行く割合が25.0%と最も多くなっている。



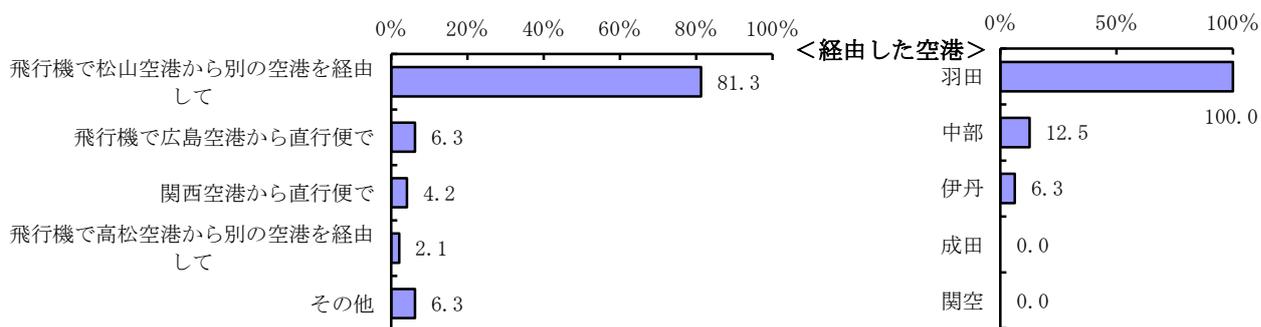
問30-1 北海道への行程

(問30で「この1年間は北海道へ行っていない」以外を答えた方に)

あなたがこの1年間に北海道へ行ったことがある場合、その行程を次の中から全て選んで○で囲んで下さい。

	(複数回答)	(%)
1 飛行機で松山空港から次の空港を経由して (羽田、成田、中部、伊丹、関空)	81.3	3
2 飛行機で高松空港から次の空港を経由して (羽田、成田)	2.1	1
3 飛行機で広島空港から直行便で	6.3	3
4 関西空港まで次の交通手段を利用して直行便で (フェリー、バス、鉄道)	4.2	2
5 その他 (具体的に)	6.3	3

この1年間に北海道へ行ったことがある人に北海道までの行程を聞いたところ、「飛行機で松山空港から別の空港を経由して」が81.3%で最も多く、次いで「飛行機で広島空港から直行便で」が6.3%、「関西空港まで別の交通手段を利用して直行便で」4.2%の順になっている。なお、松山空港から経由する空港は羽田空港が最も多く、関西空港までの交通手段はバス、鉄道の利用となっている。



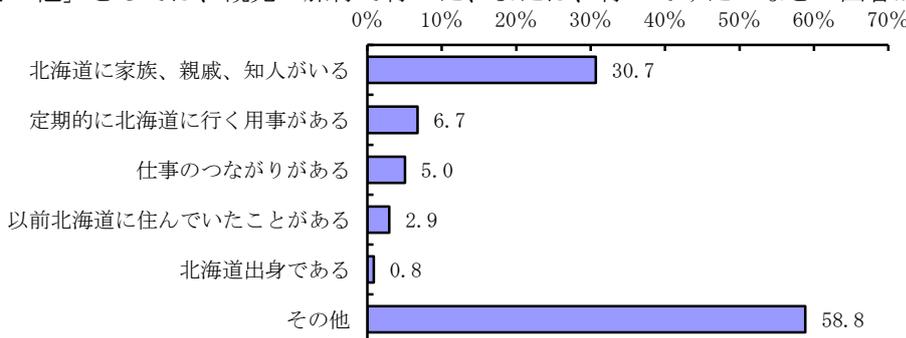
問30-2 北海道とのつながり

あなたと北海道とのつながりについて、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んで下さい。

	(複数回答)	(%)
1 北海道出身である	0.8	8
2 北海道に家族、親戚、知人がいる	30.7	7
3 以前北海道に住んでいたことがある	2.9	9
4 仕事でのつながりがある (勤め先の本社や支店、取引先など)	5.0	0
5 定期的に北海道に行く用事がある (趣味、自己啓発、社会活動など)	6.7	7
6 その他 (具体的に)	58.8	8

北海道とのつながりについて聞いたところ、「北海道に家族、親戚、知人がいる」と答えた人の割合が30.7%と最も多く、次いで「定期的に北海道に行く用事がある (趣味、自己啓発、社会活動など)」6.7%、「仕事でのつながりがある (勤め先の本社や支店、取引先など)」5.0%の順になっている。

また、「その他」としては、観光・旅行で行った、または、行ってみたいなどの回答があった。

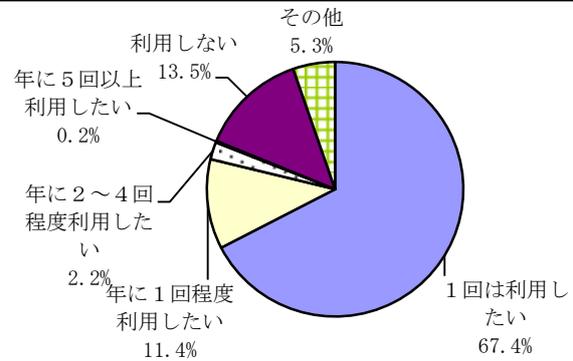


問30-3 直行便が就航した場合の利用

松山空港から北海道（札幌）への直行便が就航した場合、利用したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んで下さい。

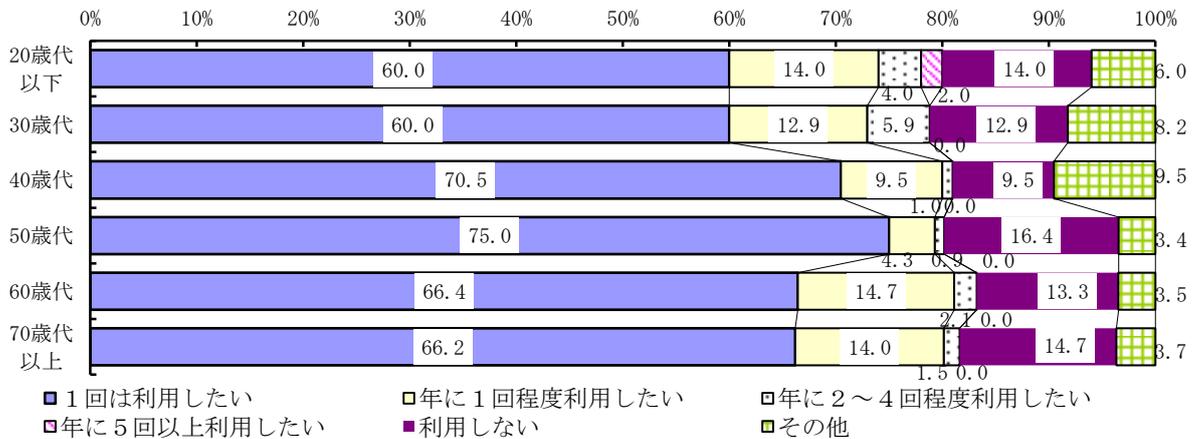
	(%)
1 1回は利用したい	67.4
2 年に1回程度利用したい	11.4
3 年に2～4回程度利用したい	2.2
4 年に5回以上利用したい	0.2
5 利用しない（理由)	13.5
6 その他（具体的に)	5.3

松山空港から北海道（札幌）への直行便が就航した場合、「1回は利用したい」と答えた人の割合が67.4%と最も多く、次いで「利用しない」13.5%、「年に1回程度利用したい」11.4%などの順になっている。なお、「利用したい」（「1回は利用したい」「年に1回程度利用したい」「年に2～4回程度利用したい」「年に5回以上利用したい」）人の割合の合計は、全体の8割以上(81.2%)を占めている。



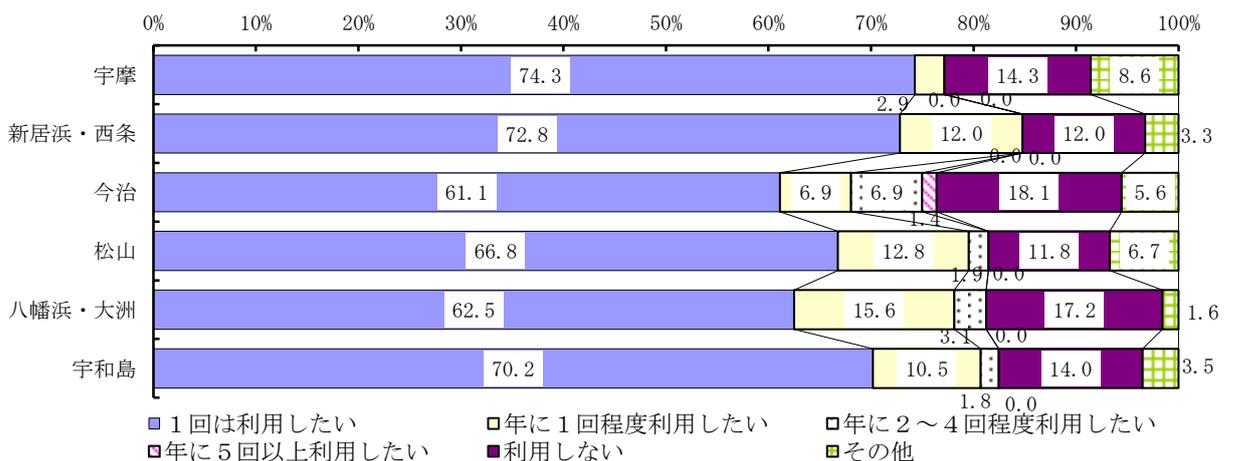
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「1回は利用したい」と答えた人の割合が多く、50歳代(75.0%)が最も多くなっているが、逆に、「利用しない」人の割合も50歳代(16.4%)が最も多い。なお、「利用したい」人の割合の合計では、60歳代が83.2%と最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「1回は利用したい」と答えた人の割合が多く、宇摩圏域(74.3%)で最も多くなっており、「利用しない」人の割合は今治圏域(18.1%)が最も多い。なお、「利用したい」人の割合の合計では、新居浜・西条圏域が84.8%と最も多くなっている。



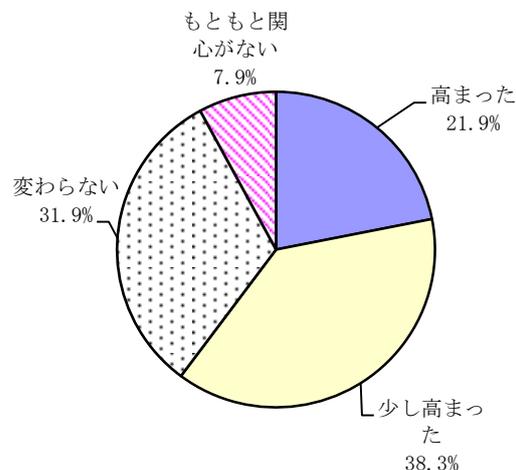
えひめ国体・えひめ大会・今後のスポーツの実施意向

問31 えひめ国体を通じたスポーツへの関心度

あなたは、今年開催された、第72回国民体育大会（愛顔（えがお）つなぐえひめ国体（以下「えひめ国体」という。））を通じて、スポーツへの関心は高まりましたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

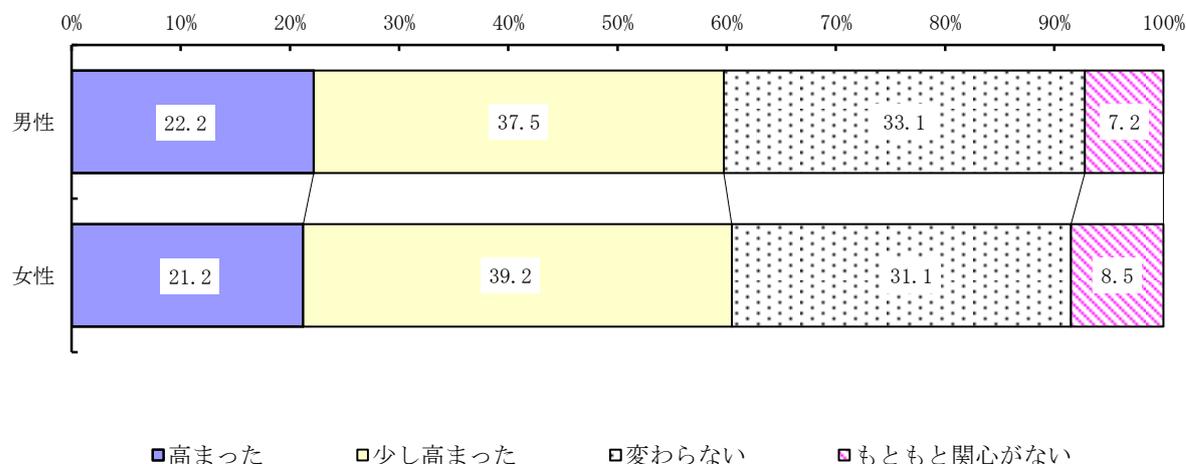
	(%)
1 高まった	21.9
2 少し高まった	38.3
3 変わらない	31.9
4 もともと関心がない	7.9

えひめ国体を通じてスポーツへの関心が高まったかどうか聞いたところ、「高まった」と答えた人の割合が21.9%、「少し高まった」38.3%、変わらない31.9%などとなっており、約6割(60.2%)の人が「高まった」（「高まった」及び「少し高まった」と答えている）。



【性別】

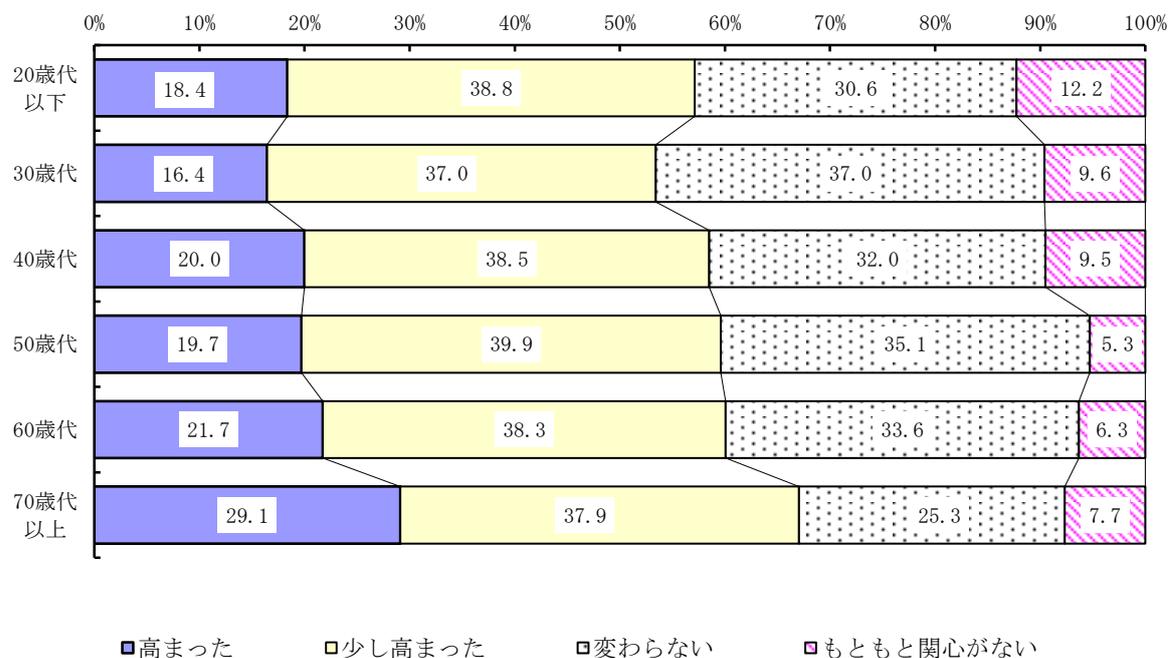
性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向であるが、「少し高まった」と答えた人の割合は、女性（39.2%）の方が男性（37.5%）より1.7ポイント多く、「変わらない」は、男性（33.1%）の方が女性（31.1%）より2.0ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代を除く全ての年齢層で「少し高まった」と答えた人の割合が多く、50歳代(39.9%)で最も多いが、30歳代では「変わらない」と同じ割合(37.0%)になっている。

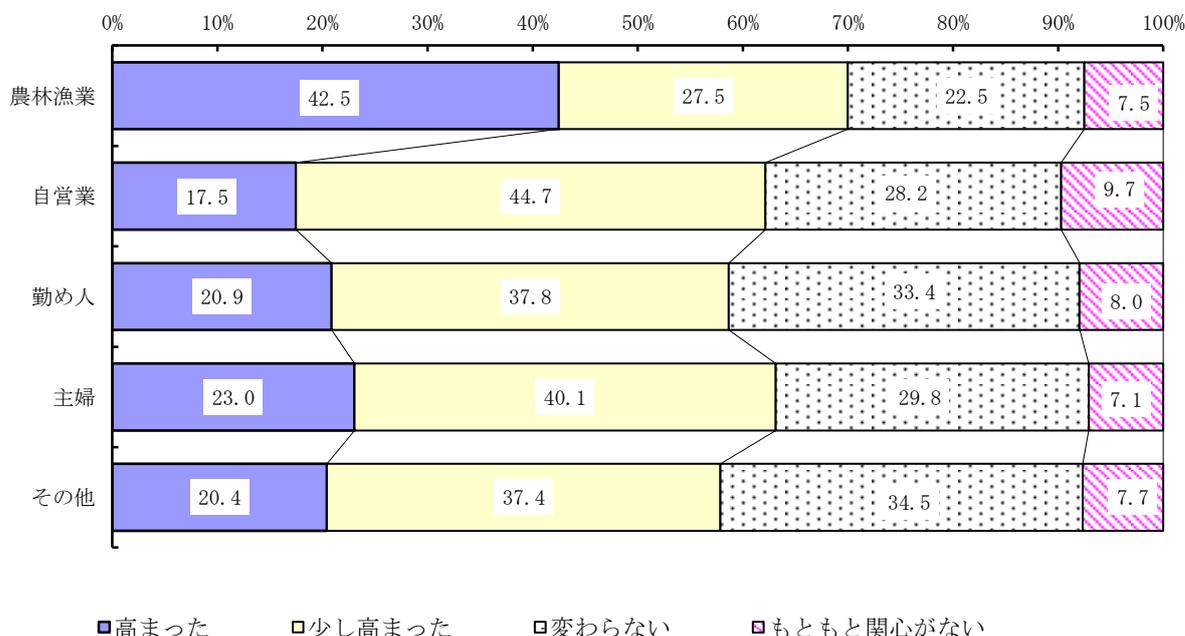
また、20歳代以下では、「もともと関心がない」が12.2%と、他の年齢層に比べて多くなっている。「少し高まった」と「高まった」をあわせると、70歳代以上が67.0%、60歳が60.0%となるなど、年齢層が上がるにつれ、スポーツへの関心が高まった人の割合が多くなる傾向にある。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業では「高まった」と答えた人の割合が最も多く(42.5%)になっている。それ以外の職種では「少し高まった」が多く、自営業(44.7%)で最も多い。

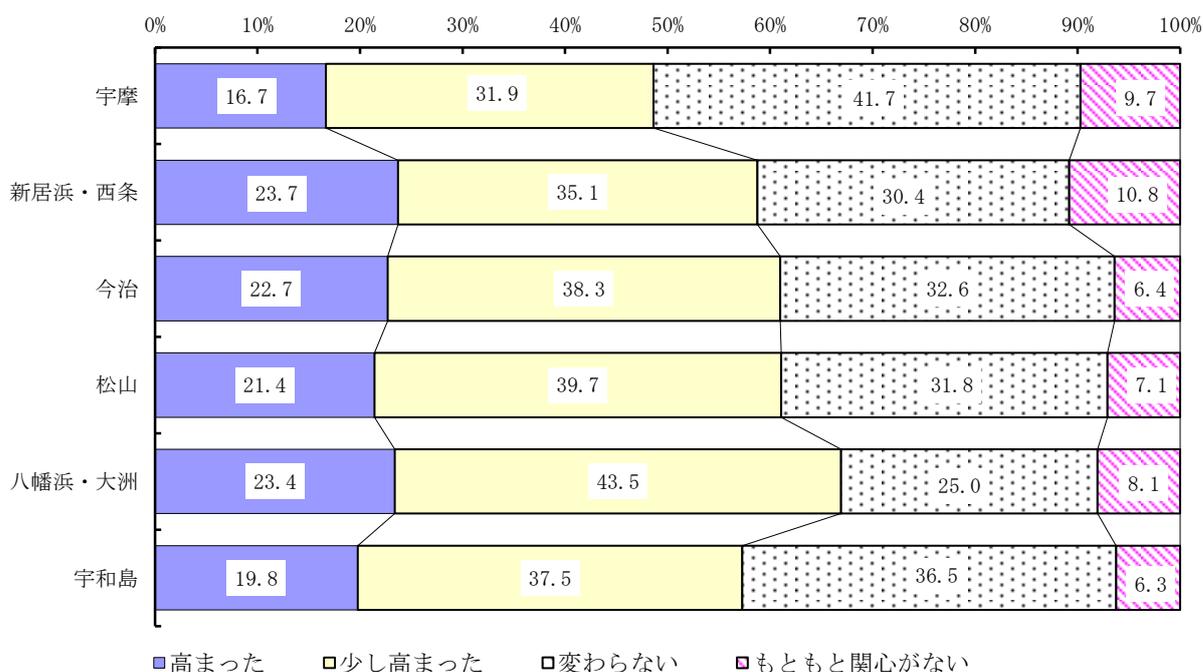
また、「少し高まった」と「高まった」をあわせた割合を見ても農林漁業が最も多く(70.0%)、次いで主婦(63.1%)、自営業(62.2%)の順になっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域以外では「少し高まった」と答えた人の割合が多く、八幡浜・大洲圏域で43.5%と最も多い。一方、宇摩圏域では「変わらない」が最も多く、41.7%となっている。

また、「少し高まった」と「高まった」をあわせた割合を見ても八幡浜・大洲圏域が66.9%と最も多いが、宇摩圏域では48.6%となっている。

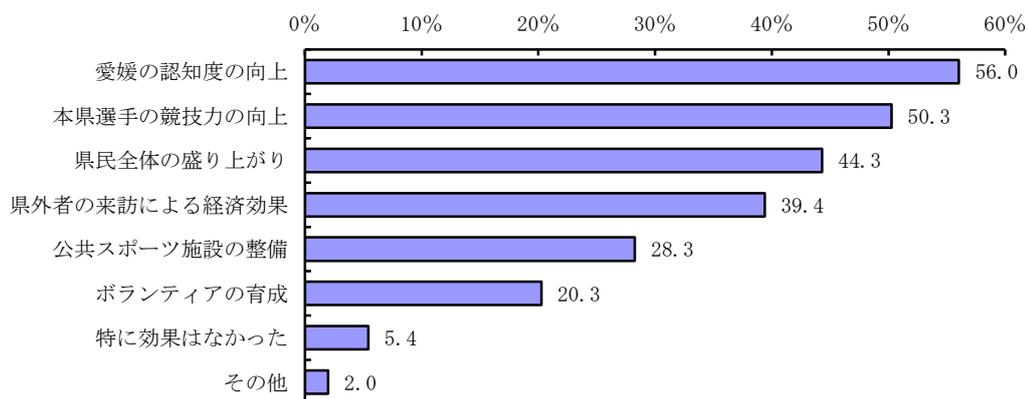


問31-1 えひめ国体の開催の効果

えひめ国体の開催は、どのような効果があったと思いますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

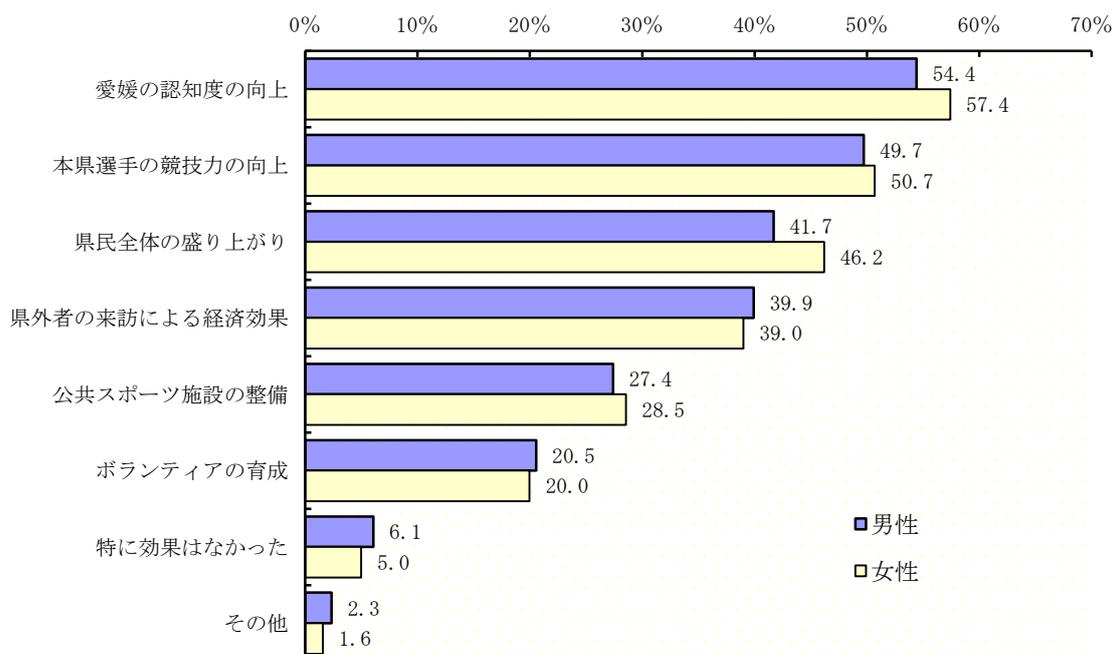
	(複数回答)	(%)
1 本県選手の競技力の向上		50.3
2 県民全体の盛り上がり		44.3
3 愛媛の認知度の向上		56.0
4 県外者の来訪による経済効果		39.4
5 公共スポーツ施設の整備		28.3
6 ボランティアの育成		20.3
7 特に効果はなかった		5.4
8 その他(具体的に)		2.0

えひめ国体を開催したことにより、どのような効果があったと思うか聞いたところ、「愛媛の認知度の向上」と答えた人の割合(56.0%)が最も多く、次いで「本県選手の競技力の向上」(50.3%)、「県民全体の盛り上がり」(44.3%)、「県外者の来訪による経済効果」(39.4%)などの順になっている。



【性別】

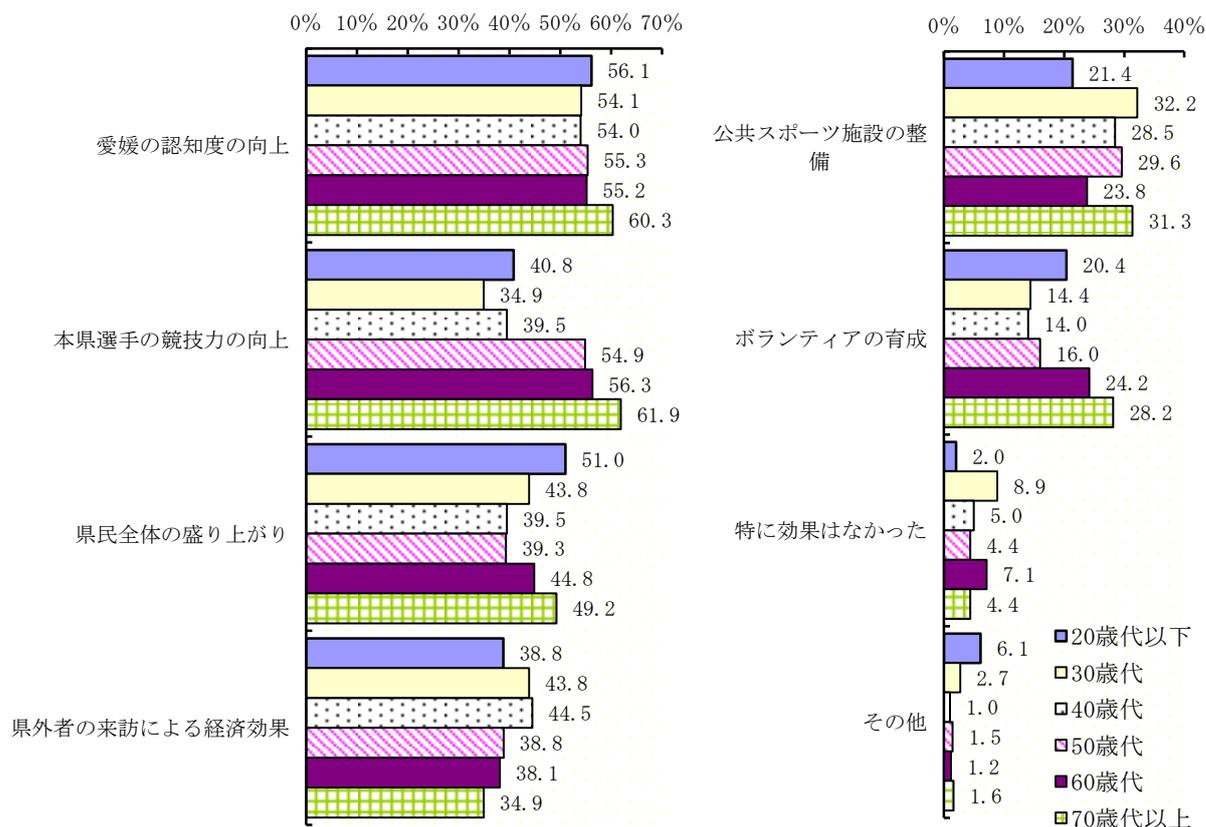
性別にみると、「県民全体の盛り上がり」と答えた人の割合は、女性（46.2%）の方が男性（41.7%）より4.5ポイント多く、「愛媛の認知度の向上」、「本県選手の競技力の向上」などでも女性の方が男性より多くなっている。一方、「県外者の来訪による経済効果」などでは、男性の方が女性よりも多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代までの年齢層では「愛媛の認知度の向上」と答えた人の割合が最も多いが、60歳代以上の年齢層になると「本県選手の競技力の向上」が最も多くなっている。

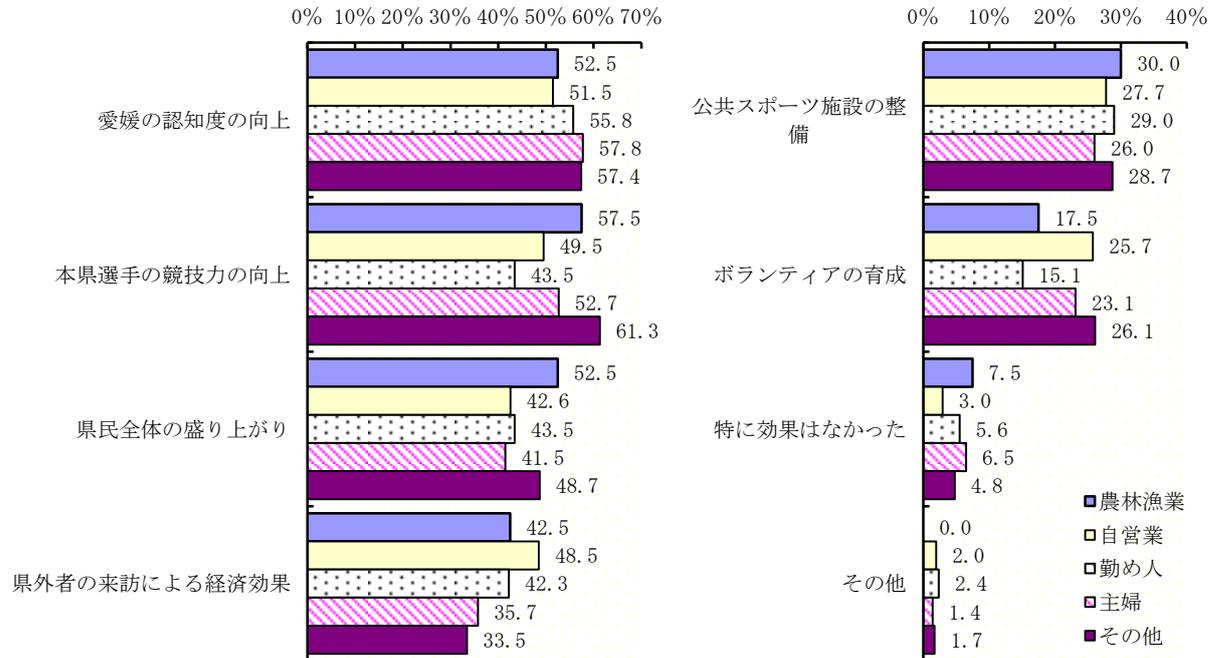
また、20歳代以下及び70歳代以上の年齢層では「県民全体の盛り上がり」、30歳代及び40歳代の年齢層では「県外者の来訪による経済効果」、60歳代以上及び20歳代以下の年齢層では「ボランティアの育成」の割合が、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、自営業、勤め人及び主婦では「愛媛の認知度の向上」と答えた人の割合が最も多いが、農林漁業及びその他では、「本県選手の競技力の向上」が最も多くなっている。

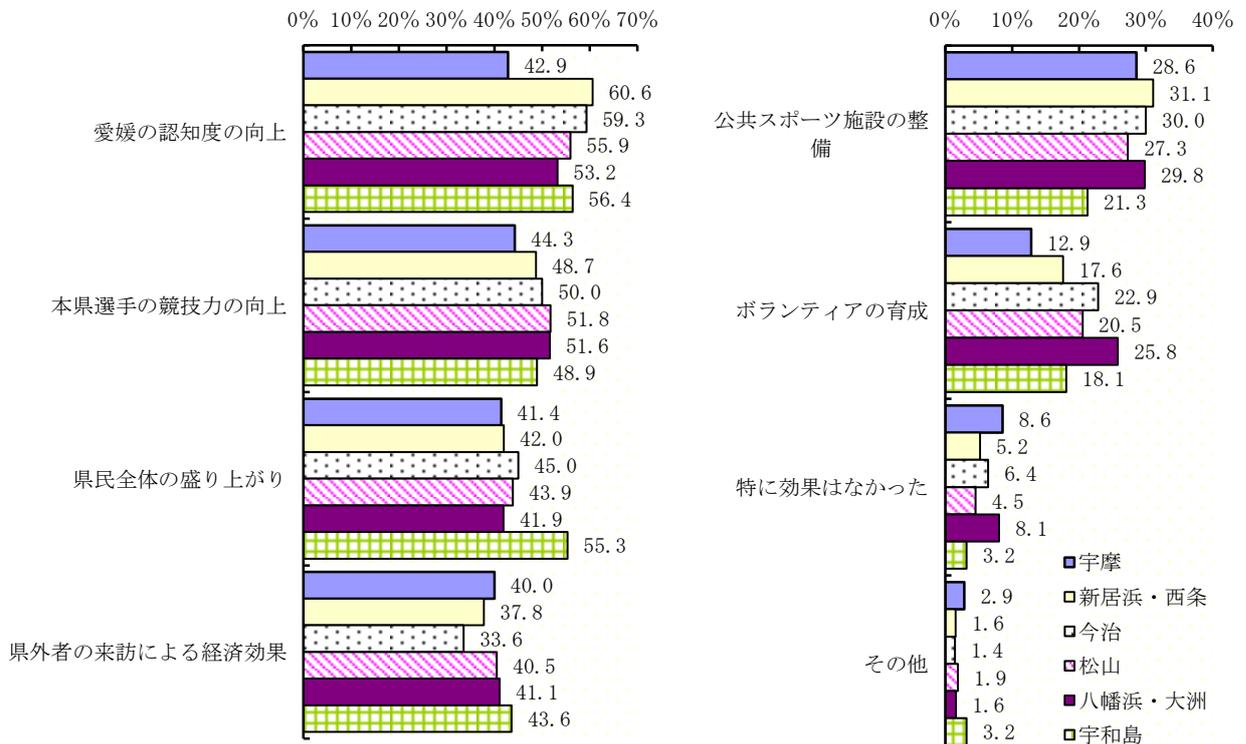
また、農林漁業及びその他では「県民全体の盛り上がり」、自営業では「県外者の来訪による経済効果」自営業、主婦及びその他では「ボランティアの育成」の割合が、他の職種と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域を除く全ての圏域で「愛媛の認知度の向上」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域では「本県選手の競技力の向上」が最も多くなっている。

また、宇和島圏域では「県民全体の盛り上がり」の割合が、八幡浜・大洲圏域、今治圏域では「ボランティアの育成」の割合が、他の圏域と比較して多くなっている。



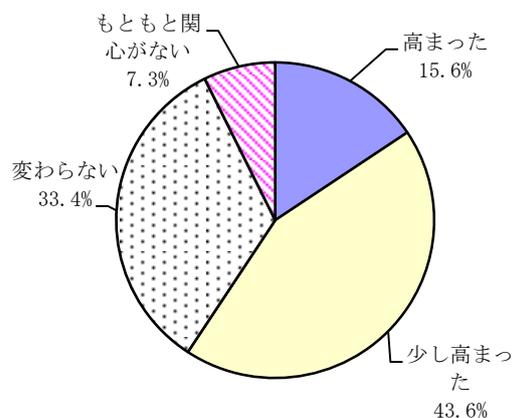
問31-2 えひめ大会を通じたスポーツへの関心度

あなたは、今年開催された、第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔（えがお）つなぐえひめ大会（以下「えひめ大会」という。））を通じて、障がい者スポーツへの関心は高まりましたか。

次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

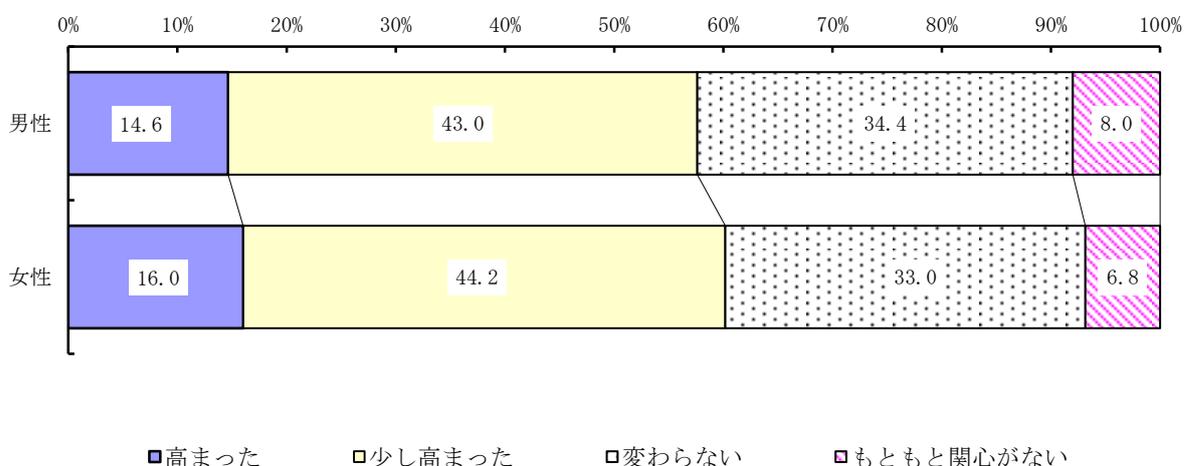
	(%)
1 高まった	15.6
2 少し高まった	43.6
3 変わらない	33.4
4 もともと関心がない	7.3

えひめ大会を通じて障がい者スポーツへの関心が高まったかどうか聞いたところ、「高まった」と答えた人の割合が15.6%、「少し高まった」43.6%、変わらない33.4%などとなっており、約6割（59.2%）の人が「高まった」（「高まった」及び「少し高まった」と答えている）。



【性別】

性別にみると、男女ともほぼ同様の傾向であるが、「少し高まった」と答えた人の割合は、女性（44.2%）の方が男性（43.0%）より1.2ポイント多く、「変わらない」は、男性（34.4%）の方が女性（33.0%）より1.4ポイント多くなっている。

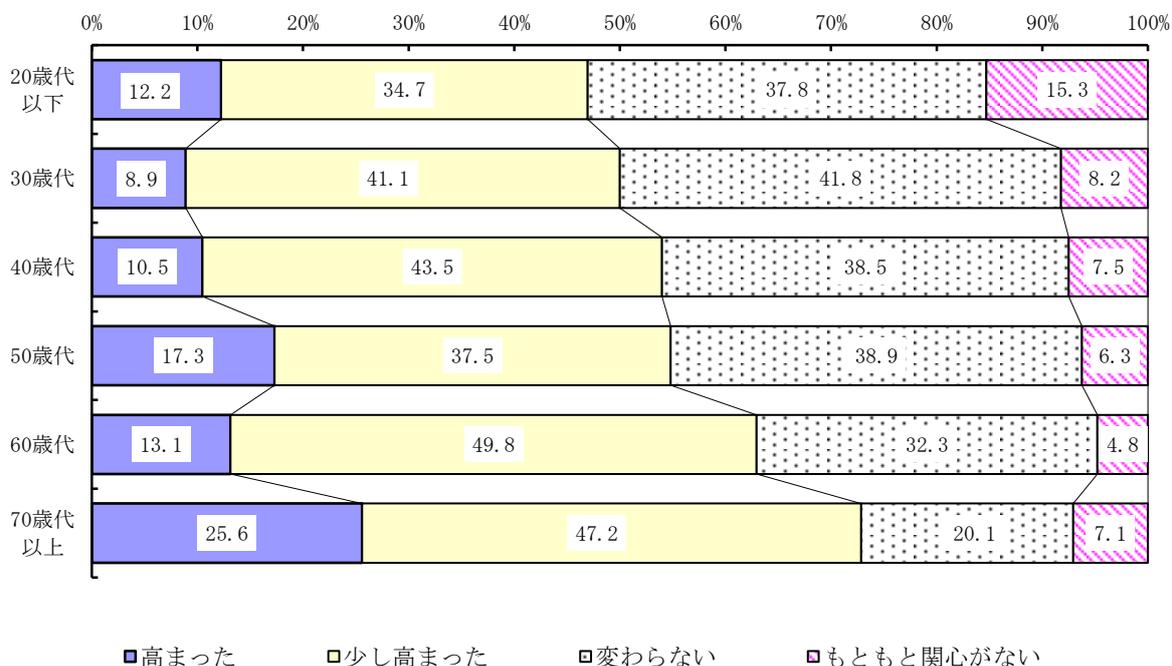


【年齢別】

年齢別にみると、40歳代及び60歳代以上の年齢層では「少し高まった」と答えた人の割合が最も多いが、30歳代以下及び50歳代では「変わらない」の割合が最も多くなっている。

また、他の年齢層に比べ、「高まった」の割合は70歳代以上(25.6%)で最も多く、逆に、「もともと関心がない」は20歳代以下(15.3%)で最も多くなっている。

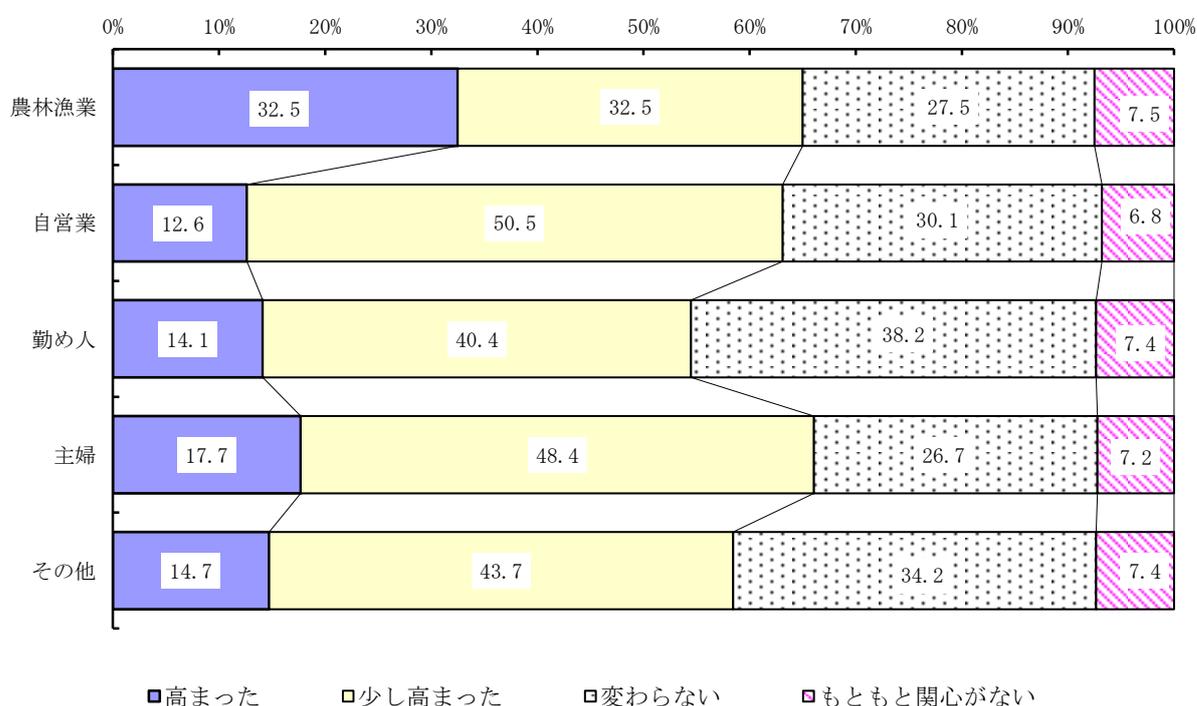
「少し高まった」と「高まった」をあわせると、70歳代以上が72.8%、60歳代が62.9%となるなど、年齢層が上がるにつれ、障がい者スポーツへの関心が高まった人の割合が多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業では「高まった」と「少し高まった」と答えた人の割合がいずれも32.5%で最も多くなっている。それ以外の職種では「少し高まった」が多く、自営業(50.5%)が最も多い。

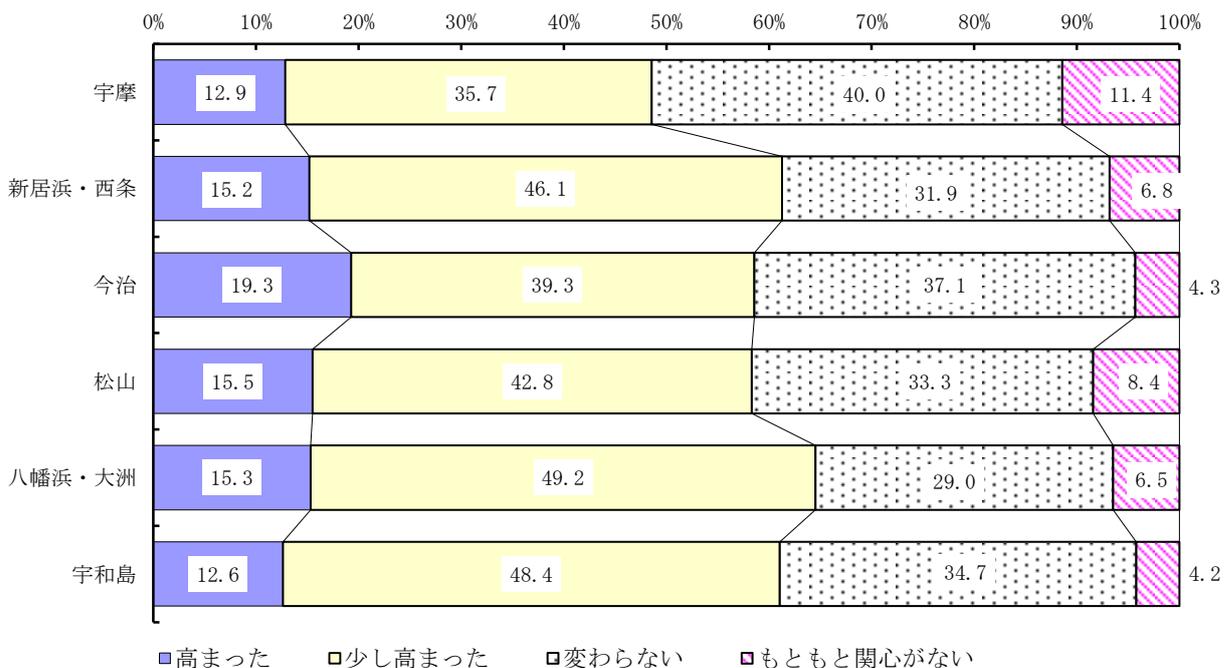
また、「少し高まった」と「高まった」をあわせた割合を見ると、主婦が最も高く(66.1%)、次いで農林漁業(65.0%)の順となっている。



【生活圏域別】

職業別にみると、宇摩圏域以外では「少し高まった」と答えた人の割合が多く、八幡浜・大洲圏域で49.2%と最も多い。一方、宇摩圏域では「変わらない」が最も多く、40.0%となっている。

また、「少し高まった」と「高まった」をあわせた割合を見ても八幡浜・大洲圏域が64.5%と最も多い一方、宇摩圏域では48.6%となっている。

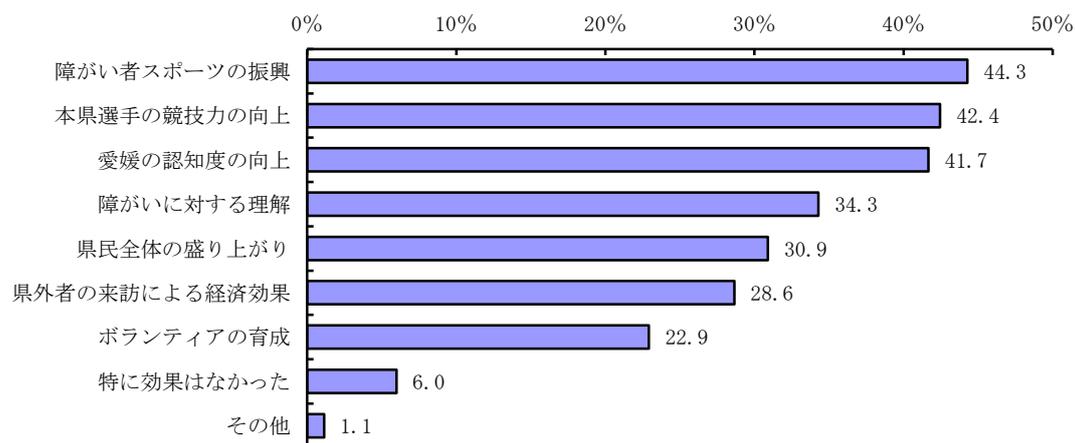


問31-3 えひめ大会の開催の効果

えひめ大会の開催は、どのような効果があったと思いますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

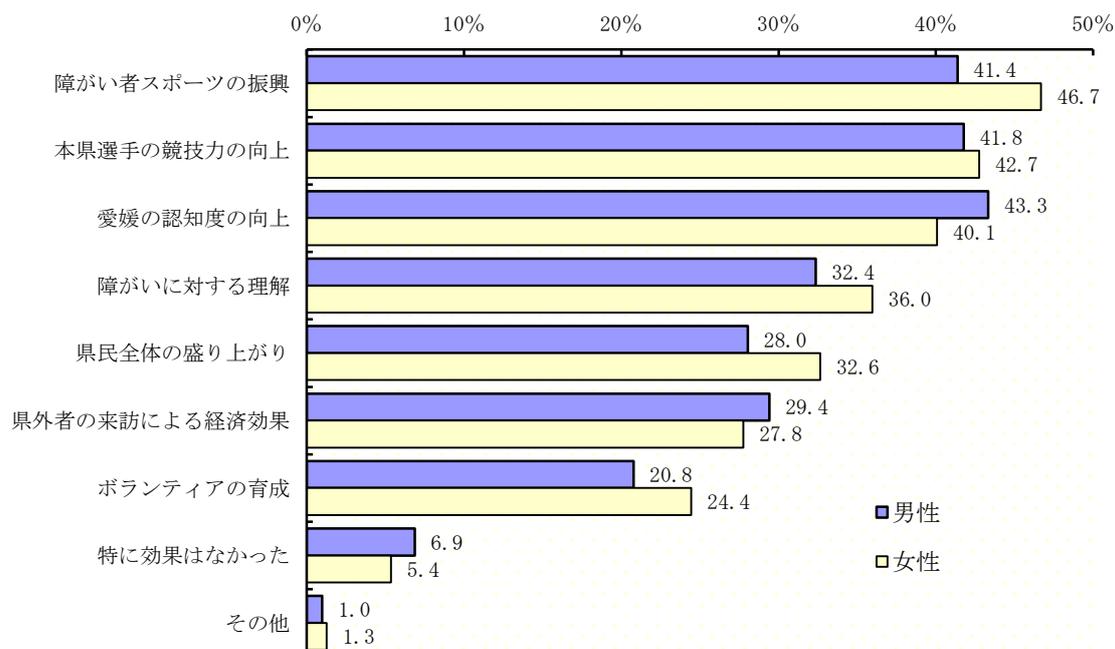
	(複数回答)	(%)
1 本県選手の競技力の向上	42.4	42.4
2 県民全体の盛り上がり	30.9	30.9
3 愛媛の認知度の向上	41.7	41.7
4 県外者の来訪による経済効果	28.6	28.6
5 障がい者スポーツの振興	44.3	44.3
6 ボランティアの育成	22.9	22.9
7 障がいに対する理解	34.3	34.3
8 特に効果はなかった	6.0	6.0
9 その他(具体的に)	1.1	1.1

えひめ大会の開催は、どのような効果があったと思うか聞いたところ、「障がい者スポーツの振興」と答えた人の割合(44.3%)が最も多く、次いで「本県選手の競技力の向上」(42.4%)、「愛媛の認知度の向上」(41.7%)、「障がいに対する理解」(34.3%)などの順になっている。



【性別】

性別にみると、男性では「愛媛の認知度の向上」と答えた人の割合が最も多く、次いで、「本県選手の競技力の向上」、「障がい者スポーツの振興」などの順、女性では「障がい者スポーツの振興」、「本県選手の競技力の向上」、「愛媛の認知度の向上」などの順になっている。また、「愛媛の認知度の向上」の割合は、男性（43.3%）の方が女性（40.1%）より3.2ポイント多く、「障がい者スポーツの振興」は、女性（46.7%）の方が男性（41.4%）より5.3ポイント多くなっている。

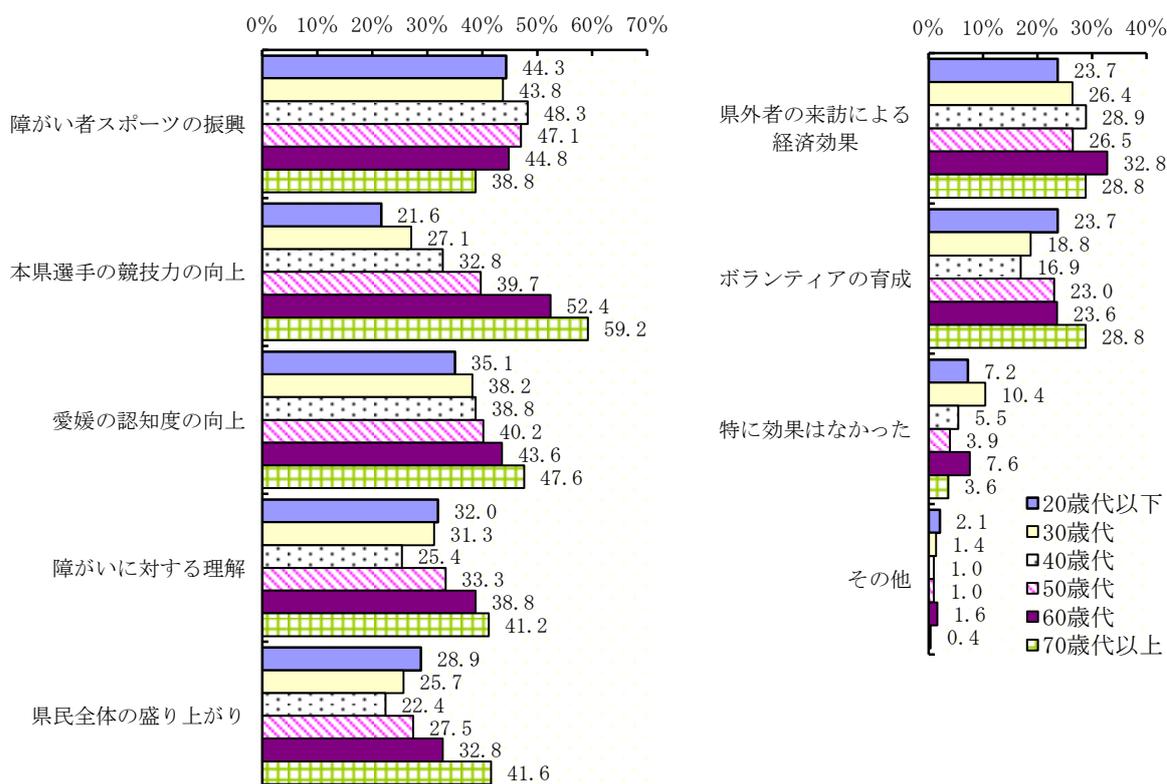


【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下の年齢層では「障がい者スポーツの振興」の割合が最も多いが、60歳代以上の年齢層になると「本県選手の競技力の向上」が最も多くなっている。

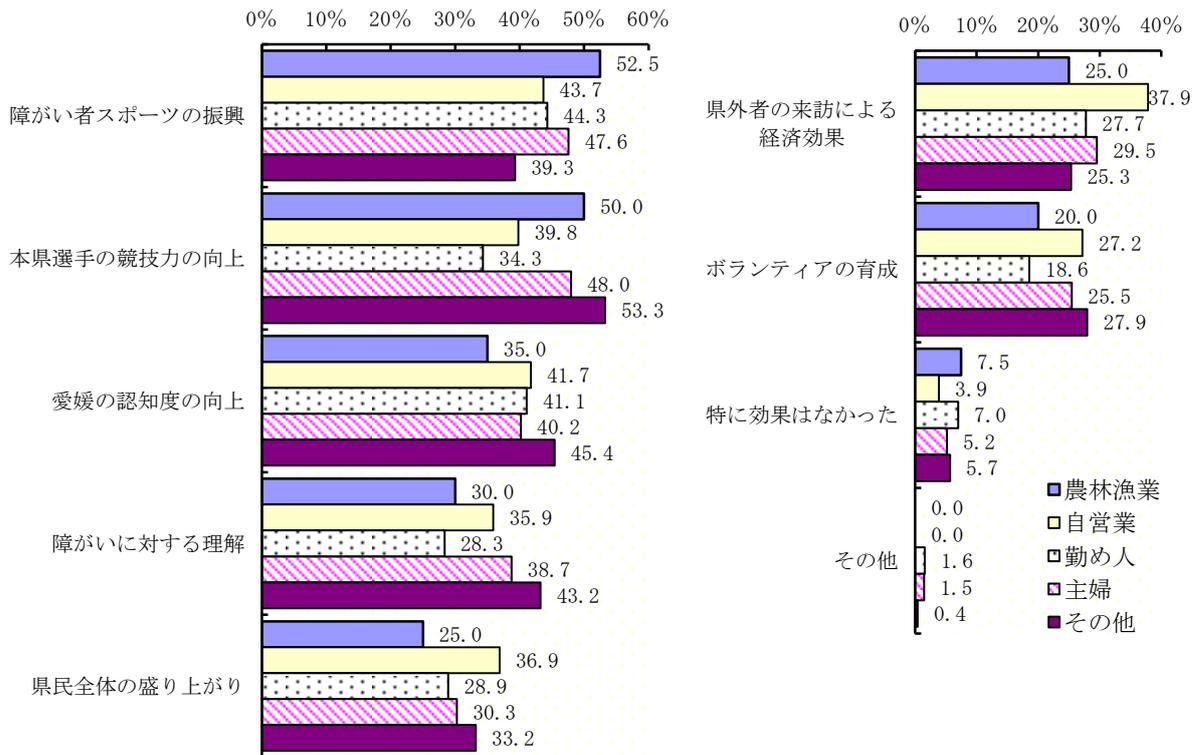
また、「本県選手の競技力の向上」「愛媛の認知度の向上」については、年齢層が上がるにつれ、効果があったと答えた人の割合が多くなっている。

なお、70歳代以上では「県民全体の盛り上がり」の割合が、60歳代では「県外者の来訪による経済効果」の割合が、他の年齢層と比較して多くなっている。



【職業別】

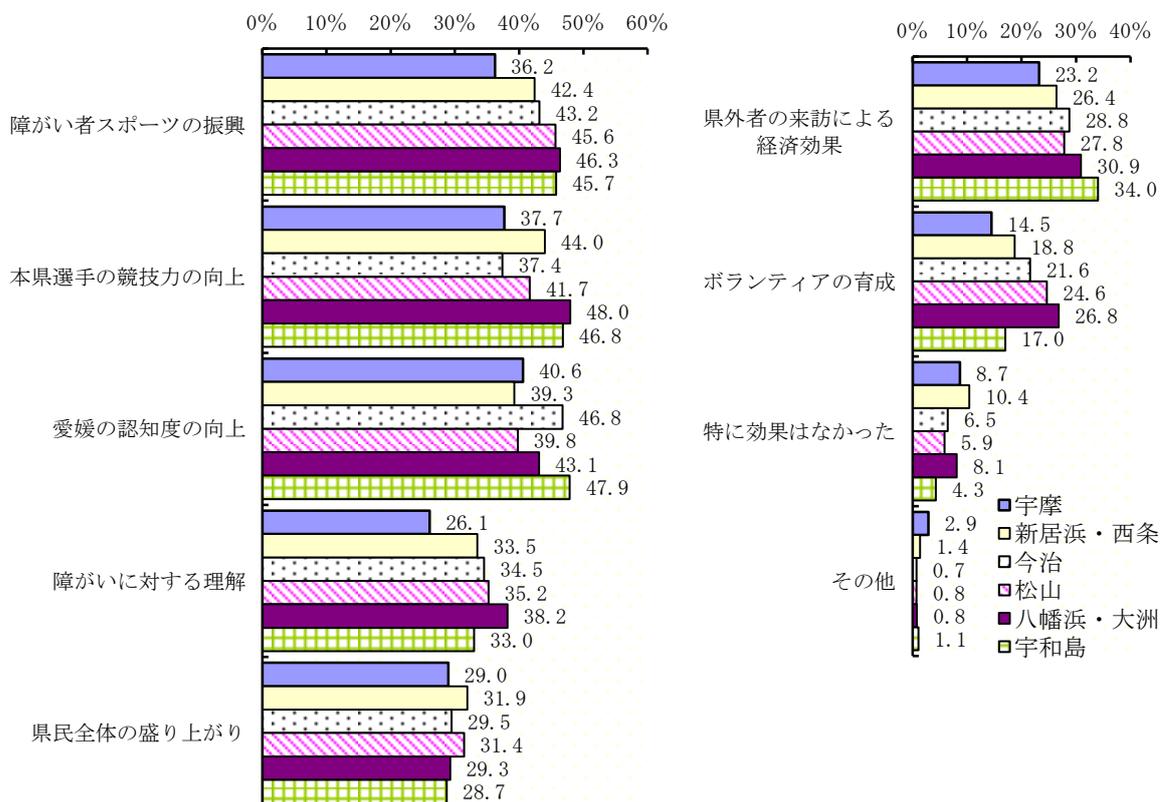
職業別にみると、農林漁業、自営業及び勤め人では「障がい者スポーツの振興」と答えた人の割合が最も多く、主婦及びその他では「本県選手の競技力の向上」が最も多くなっている。また、自営業では、「県外者の来訪による経済効果」の割合が他の圏域と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、今治圏域及び宇和島圏域では「愛媛の認知度の向上」と答えた人の割合が最も多く、新居浜・西条圏域及び八幡浜・大洲圏域では「本県選手の競技力の向上」、松山圏域では「障がい者スポーツの振興」が最も多くなっている。

また、宇和島圏域では「県外者の来訪による経済効果」の割合が、八幡浜・大洲圏域では「ボランティアの育成」の割合が、他の圏域と比較して多くなっている。

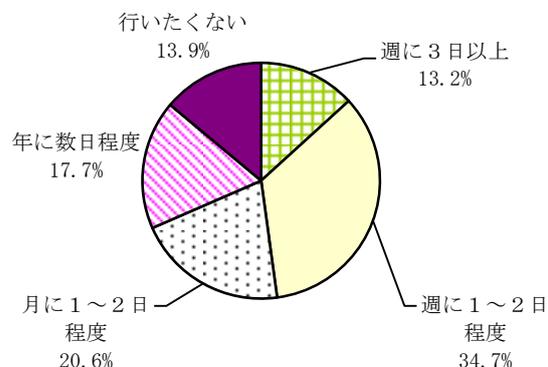


問31-4 スポーツや運動の実施頻度

あなたは、今後、スポーツや運動をどの程度行いたいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

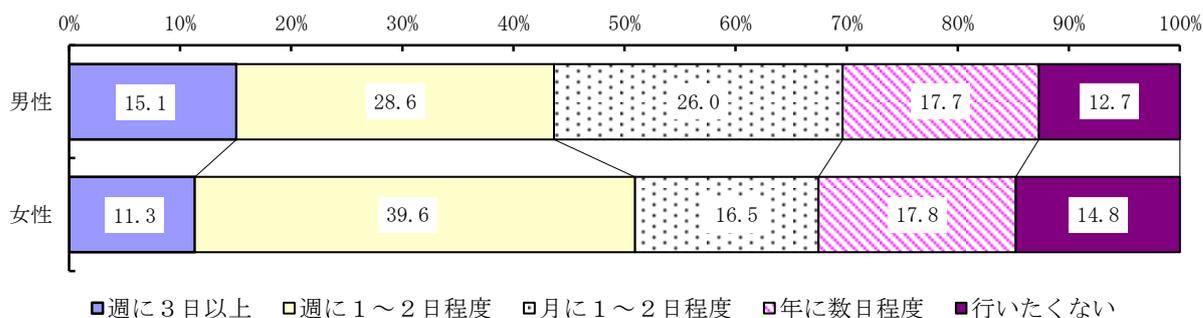
	(%)
1 週に3日以上	13.2
2 週に1~2日程度	34.7
3 月に1~2日程度	20.6
4 年に数日程度	17.7
5 行いたくない	13.9

今年度のえひめ国体・えひめ大会の開催後、スポーツや運動をどの程度行いたいと思うか聞いたところ、「週に1~2日程度」と答えた人の割合(34.7%)が最も多く、次いで「月に1~2日程度」(20.6%)、「年に数日程度」(17.7%)などの順になっている。



【性別】

性別にみると、男女とも「週に1~2日程度」と答えた人の割合が最も多いが、その次に多いのは、男性では、「月に1~2日程度」、女性では「年に数日程度」となっている。「週に1~2日程度」と答えた人の割合は、女性(39.6%)の方が男性(28.6%)より11.0ポイント多く、「月に1~2日程度」は、男性(26.0%)の方が女性(16.5%)より9.5ポイント多くなっている。

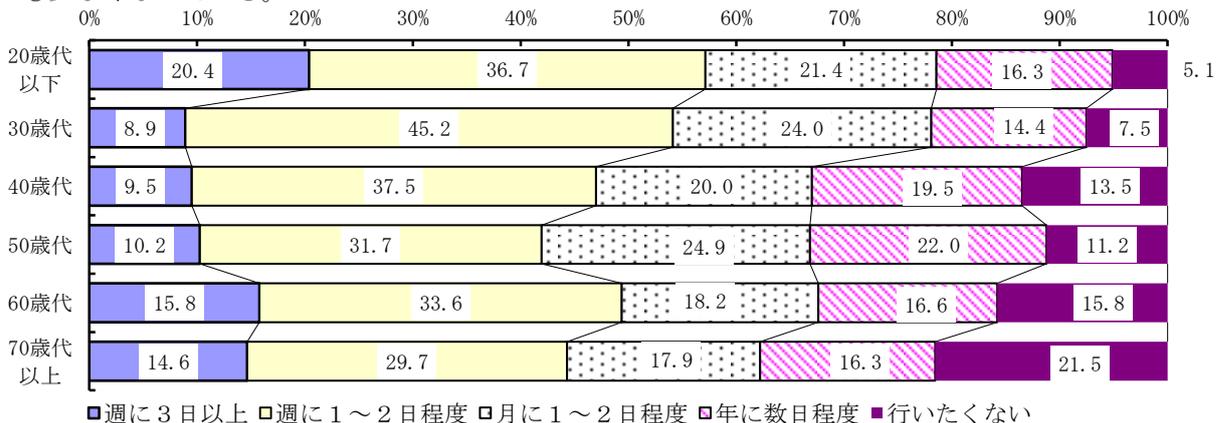


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「週に1~2日程度」と答えた人の割合が多く、30歳代(45.2%)で最も多くなっている。

「行いたくない」と答えた人の割合をみると、20歳代以下が5.1%と最も少なく、70歳代以上が21.5%と最も多くなっており、年齢層が上がると多くなる傾向にある。

「行いたい」人のうち、「週に3日以上」の割合は20歳代以下が20.4%と最も多く、30歳代が8.9%と最も少なくなっている。



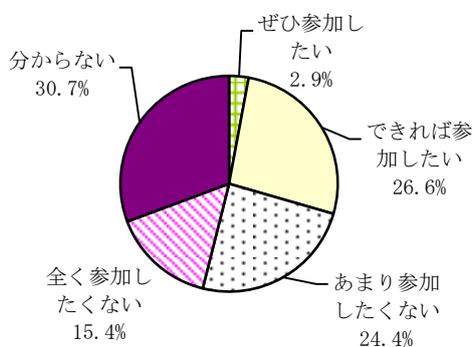
問31-5 スポーツに関わるボランティア活動への参加

あなたは、今後、スポーツに関わるボランティア活動に参加したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 ぜひ参加したい	2.9
2 できれば参加したい	26.6
3 あまり参加したくない	24.4
4 全く参加したくない	15.4
5 分からない	30.7

今年度のえひめ国体・えひめ大会の開催後、スポーツに関わるボランティア活動に参加したいと思うか聞いたところ、「分からない」と答えた人の割合(30.7%)が最も多く、次いで「できれば参加したい」(26.6%)、「あまり参加したくない」(24.4%)などの順になっている。

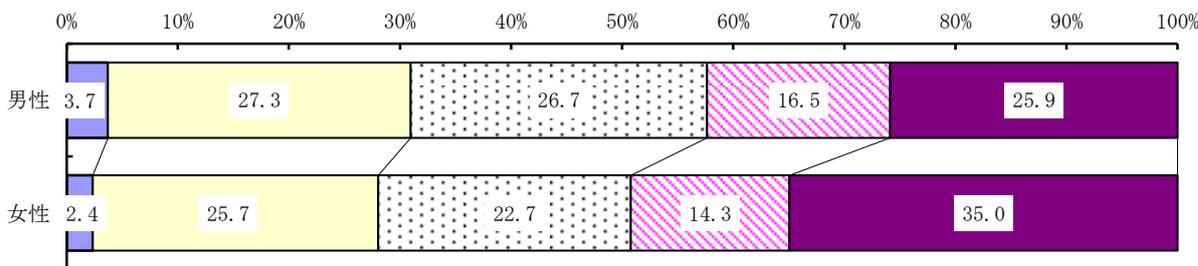
「参加したい」(「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」)人の割合は約3割(29.5%)、「参加したくない」(「あまり参加したくない」「全く参加したくない」)は約4割(39.8%)となっている。



【性別】

性別にみると、男性では「できれば参加したい」と答えた人の割合が最も多く、次いで、「あまり参加したくない」、「分からない」などの順、女性では、「分からない」、「できれば参加したい」、「あまり参加したくない」などの順になっている。

また、「できれば参加したい」の割合は、男性(27.3%)の方が女性(25.7%)より1.6ポイント多く、「分からない」は、女性(35.0%)の方が男性(25.9%)より9.1ポイント多くなっている。

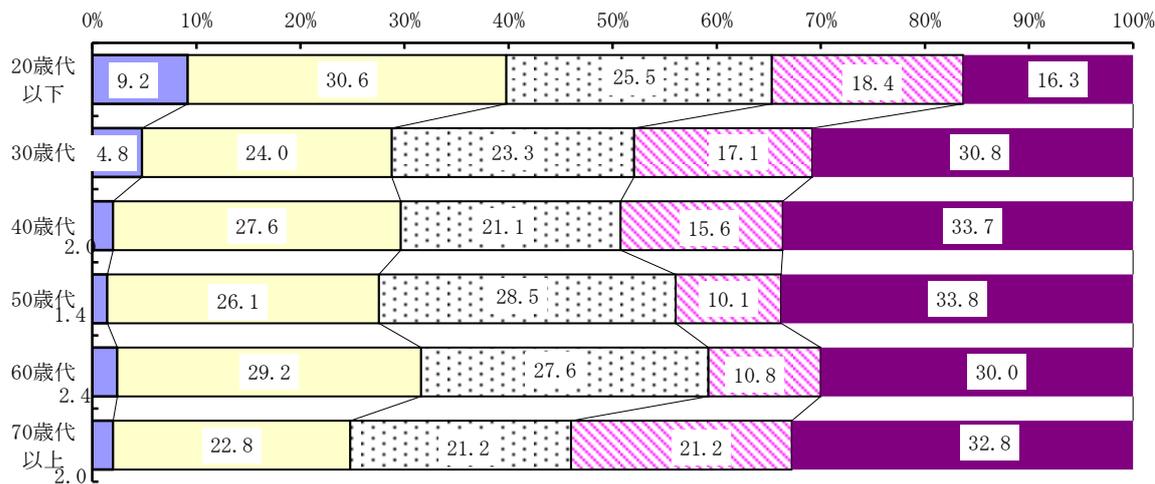


■ぜひ参加したい □できれば参加したい □あまり参加したくない □全く参加したくない ■分からない

【年齢別】

年齢別にみると、30歳以上の年齢層で「分からない」と答えた人の割合が多い(いずれも30%台)が、20歳代以下では「できれば参加したい」が30.6%と最も多くなっている。

また、「参加したい」の割合の合計及び「参加したくない」の割合の合計をみると、どちらも20歳代以下が最も多く、「参加したい」39.8%、「参加したくない」43.9%となっている。



■ぜひ参加したい □できれば参加したい □あまり参加したくない
□全く参加したくない ■分からない